

令和 7 年度（令和 6 年度実績）
教育委員会点検・評価報告書

令和 7 年11月
愛南町教育委員会

点検及び評価の概要

教育委員会の効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、「教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理及び執行の状況」について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行いました。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、ここにその結果に関する「令和7年度（令和6年度実績）教育委員会点検・評価報告書」を作成して議会に提出するとともに、公表します。

愛南町教育委員会は、令和6年度愛南町教育基本方針を基に、学習意欲を高め、確かな学力、豊かな心、健やかな体などの生きる力をはぐくむ学校教育を推進してきたところ、学校、家庭、地域が連携・協働して、次代を担う子どもたちの健やかな成長の支援、心豊かな生涯学習社会の形成などを目指して実施した取組について、自己点検・評価を行い、有識者の意見・提言を受けました。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らが事後にその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的で効果的な教育行政の推進を図ることとします。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検及び評価の構成

1 項目

点検・評価は、「1 教育委員会の活動」、「2 教育委員会が管理・執行する事務」、「3 管理・執行を教育長に委任する事務」の三つの大項目を基本として、必要に応じて細分化し、中項目、小項目に整理し点検・評価を行いました。

2 目標

目標は令和6年度愛南町教育基本方針を基に、項目ごとに掲げました。

3 取組の概要

各項目の目標達成に向けて、令和6年度に実施した主な取組を示しています。

4 評価

令和6年度の取組を踏まえ、進捗状況や今後の課題等、項目ごとに評価をし、ランク付けを行いました。評価の判断基準は、次のとおりです。

評価	判断基準
A	よい.....成果が上がり目標を十分に達成している
B	概ねよい.....成果は上がっており、概ね目標を達成している
C	やや悪い.....成果は見られるが、改善の必要がある
D	悪い.....成果はあまり上がっておらず見直しの必要がある

5 愛南町教育委員会点検・評価員の御意見

点検・評価結果に対して、愛南町教育委員会が委嘱した次の愛南町教育委員会点検・評価員から大項目ごとに御意見をいただきました。

氏名	住所
遠藤 敏朗	松山市安城寺町
坂尾 英治	愛南町御荘和口
吉田 貴子	愛南町御荘平城

令和7年度（令和6年度実績） 教育委員会の点検・評価一覧表

大項目	中項目	小項目	評価
1 教育委員会の活動	1 教育委員会の会議	1 開催状況、運営上の工夫及び事務局との連携	B
	2 教育委員会の自己研鑽等	1 研修会等、学校訪問・支援	A
	3 総合教育会議への参画		A
2 教育委員会が管理・執行する事務	1 教育行政の基本方針を定めること		B
	2 教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること		A
	3 教育機関の委員及び職員の任免その他人事に関すること、また教職員の人事に関すること		A
	4 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること		B
	5 要保護・準要保護の認定に関すること		A
	6 高校魅力化推進に関すること		A
3 管理・執行を教育長に委任する事務	1 学校教育に関すること	1 確かな学力の定着と向上	B
		2 生徒指導の徹底と健全育成	B
		3 教職員の資質と能力の向上	B
		4 特色ある学校づくり	B
		5 豊かな心を育てる教育の推進	B
		6 人権・同和教育の充実	B
		7 特別支援教育の推進	A
		8 健康教育の推進	A
		9 安全・安心な学校づくりの推進	A
		10 教育環境の整備・充実	A
		11 幼稚園の運営・管理	A
	2 学校給食に関すること	1 学校給食の運営・管理	A
		2 給食費の適正な徴収	A
	3 生涯学習に関すること	1 学び、伝え、創る生涯学習社会の形成	B
		2 あらゆる差別や偏見を解消する人権・同和教育の推進と「共生」社会の確立	B
		3 地域ぐるみで取り組む青少年の健全育成	B
		4 地域に根ざした公民館活動の充実	B
		5 地域文化振興と文化財の整備保存	B
		6 健康な町民育成のためのスポーツ振興	B

大項目	1	教育委員会の活動	評価	B
中項目	1	教育委員会の会議		
小項目	1	開催状況、運営上の工夫及び事務局との連携		

目標

- 開かれた、分かりやすい教育行政の実現に努めます。
- 教育委員会、事務局、学校その他教育機関との連携を密にし、情報収集や意見交換を積極的に行います。
- 教育委員は教育委員会の重要事項の意思決定を行う責任者であるという自覚を持ち、教育委員会における重要事項に関して審議及び承認を行うとともに、愛南町の教育行政のチェックを行います。

取組の概要、分析

会議名	回数	備考	
令和6年 教育委員会	13回	議案	18件
		協議事項	9件
		報告事項	43件

教育委員会の会議は、原則として定例会を毎月1回開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。会議の日程調整では、教育委員がなるべく出席可能となるように、各委員と十分に意思疎通を図りました。各議案、協議事項等においては、各担当から詳細な情報提供及び説明を行い、審議の活性化が図れるよう努めました。

なお、今後も教育委員会事務局から各委員に適切な情報提供を行い、各委員との十分な情報共有を図ることにより、愛南町の教育行政を推進します。

特記事項(前年度比等)

大項目	1	教育委員会の活動	評価	A
中項目	2	教育委員の自己研鑽等		
小項目	1	研修会等、学校訪問・支援		

研修内容	
<p>●愛媛県市町教育委員会連合会定期総会での研修（R6.7.19 新居浜市で開催）</p> <p>①今、必要な自殺予防教育とは？～マインドフルネスの観点から～</p> <p>②別子銅山 近代化産業遺産を活かした持続可能なまちづくり学習 ～「学びの絆サイクル」の循環を目指して～</p> <p>●南予管内市町等教育委員会研修会（R7.2.27 内子町で開催）</p> <p>①国際交流を通じた人づくり・まちづくりを目指して</p>	

取組の概要、分析
<p>○研修について 愛媛県市町教育委員会連合会定期総会及び南予管内市町等教育委員会研修会において、関係市町等との連携や情報交換を深め、研修により自己研鑽に努めました。</p> <p>○学校訪問について 令和6年度は、5月21日から6月26日の間に、実質7日間かけて全小中学校及び幼稚園を訪問しました。学校訪問では、学校の経営方針、指導体制、教育環境、教職員の指導状況、児童生徒の学習状況等の様々な取組状況の把握により、指導・支援に役立てることを目的として、授業の参観、諸帳簿点検、施設点検等をするなど、教育活動全般にわたり視察を行いました。また、校長だけでなく教職員から、学校運営における課題や学校の現状、児童生徒の様子などの意見聴取や意見交換を行うとともに、「分かりやすく、楽しい授業になっているか」などの視点により助言を行いました。この学校訪問から得られた情報や課題を基に、児童・生徒の学習環境の充実に取り組んでいきます。</p>

特記事項(前年度比等)

大項目	1	教育委員会の活動	評価	A
中項目	3	総合教育会議への参画		
小項目				

総合教育会議の内容

- 愛南町（篠山小中学校組合）総合教育会議
【令和6年7月8日開催】
 1. 学校経営方針について（愛南町立城辺小学校）
 2. 授業参観
 3. I C Tの利用状況及び端末更新について
 4. 不登校児童・生徒の状況及びサポートルームについて

取組の概要、分析

教育委員会では、教育委員会の会議や学校訪問、各研究会等において、各委員がそれぞれの専門性や識見を発揮しながら、教育行政の推進のために活動しています。総合教育会議とは、町長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等の協議・調整を行う場です。

令和6年度の総合教育会議は、7月8日に愛南町と篠山小中学校組合との合同で開催され、町長、教育長及び教育委員が出席しました。会議の開催場所を城辺小学校に設定して城辺小学校の授業参観を行い、学校現場の現状を視察するとともに、I C Tの利用状況の説明、不登校児童・生徒の状況を踏まえたサポートルームの設置についての意見交換、協議等を行いました。

※サポートルーム…長期欠席の生徒や集団生活になじめない生徒に、学びの場を保障し、多様な教育機会を確保するための校内の専用教室

特記事項(前年度比等)

総合教育会議の開催場所を愛南町役場の会議室から城辺小学校に変更し、町長及び教育委員に学校現場の現状を視察いただきました。

- サポートルームの設置は、全国的な課題である。前向きに検討して実施していることを評価する。先行実施の他市町の効果等を参考に、さらに充実させてほしい。
- 教育委員会が情報共有を重視し、定期的に開催されていることを評価する。
- 学校現場の状況を視察するために、総合教育会議を役場の会議室から城辺小学校に変更したことを評価する。
- サポートルームは該当するご家族にとってとても頼もしい仕組みだと思う。今後も、現場の状況を細かく確認して充実させてほしい。
- 今後も、教育委員には自己研鑽に努めていただきたい。
- 今後も事務局と連携を密にし、学校訪問など現場の状況・課題を把握し、学習環境を充実していただきたい。
- 新たなサポートルームの設置を前向きに検討していただきたい。

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	B
中項目	1	教育行政の基本方針を定めること		
小項目				

目標

議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境を整えるために、学校の適正規模や適正配置、具体的な再編の計画を策定する。

取組の概要、分析

○令和5年4月20日に策定した「愛南町教育振興に関する大綱」（令和5年度～令和8年度）を基に定められた「令和6年度愛南町教育基本方針」により愛南町のエ育行政を推進しました。

○小中学校の再編について

1. 令和元年度に学校運営協議会や町PTA連合会理事会と協議を行いました。
2. 令和2、3年度に学校統廃合検討委員会、検討会からの愛南町公立小中学校再編に関する答申書を受けました。
3. 令和3、4年度に答申書に係る協議を全小中学校のPTA役員と実施、全小中学校で保護者説明会を実施しました。また、再編に関する協議、住民説明会を長月、久良、内海地区で実施しました。
4. 令和4年6月29日 愛南町公立小中学校再編計画を策定しました。
5. 令和5年度に内海地域の保護者説明会・意見交換会を実施し、令和6年3月28日に計画の一部修正しました。
6. 令和6年度に各学校の学校運営協議会へ参加し、今後の学校のあり方や運営方針について、保護者・地域住民及び学校関係者から意見を聴取しました。

愛南町教育委員会では、60回を超える協議等を保護者、地域、識見者など様々な方々と重ね、愛南町公立小中学校再編計画を策定しました。人口減という大きな流れの中で、学校再編は避けて通れない道です。しかしながら、地域社会は多様であり、学校、保護者、地域住民には、子どもたちの学習環境や学校活動等について様々な考え方があります。結果として、内海地域における小学校の再編計画を見直しをすることで保護者や地域と同意を得られたことから、令和6年3月に計画の一部修正を実施しました。

愛南町の将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境の整備について、引き続き協議検討をしていきます。

特記事項(前年度比等)

令和6年度中に各学校の学校運営協議会へ参加し、各地域における今後の学校のあり方や運営方針について意見聴取を行いました。

特に、児童生徒数の減少が著しい篠山小中学校については、児童生徒数の推移見込や今後の方針について地域の方々へ詳しく提示し、教育委員会でも地域の意向を反映させるための協議を行いました。

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	2	教育委員会規則等の制定又は改廃に関する事		
小項目				

目標
議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

取組の概要、分析
<p>令和6年の教育委員会に諮った規則は、5件でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛南町立学校の通学区域に関する規則の改正について ・愛南町小中学校共同学校事務室の設置及び運営に関する規則の一部改正について ・愛南町立学校管理規則の一部改正について ・愛南町教育委員会事務局組織規則の一部改正について ・愛南町立学校の通学区域に関する規則の改正について <p>令和6年の教育委員会で審議・報告した要綱は、6件でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛南町文化財保護事業補助金交付要綱の制定について ・愛南町花いっぱい運動実施要綱の制定について ・愛南町通学費補助金交付要綱の一部改正について ・愛南町奨学金返済支援補助金交付要綱の改正について ・愛南町ランドセル無償配付事業実施要綱の廃止について ・愛南町懇話会等の設置及び運用に関する要綱の一部改正について <p>以上の教育委員会の例規について慎重に審議され、適切に事業が執行されました。</p>

特記事項(前年度比等)
<p>ランドセル無償配付事業については、子育て支援課に事業を移管したため、要綱を廃止しています。</p>

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	3	教育機関の委員及び職員の任免その他の人事に関する事、また、教職員の人事に関する事		
小項目				

目標
議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

取組の概要、分析
<p>令和6年の教育委員会に諮った人事・任免案件については、4件でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育長職務代理者の指名について ・教職員の人事異動について ・愛南町社会教育委員の委嘱について ・愛南町公民館運営審議会委員の委嘱について <p>令和6年の教育委員会で報告した人事・任免案件については、7件でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町職員の人事異動について ・学校運営協議会委員の任命について ・愛南町文化財保護審議会委員の委嘱について ・愛南町人権・同和対策審議会委員の委嘱について ・愛南町御荘B & G海洋センター運営懇話会委員の委嘱について ・人権擁護委員候補者の推薦について ・愛南町教育委員会委員について <p>以上の教育委員会で扱った人事・任免案件については、慎重に審議され、承認されました。</p>

特記事項(前年度比等)

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	B
中項目	4	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること		
小項目				

目標
議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

取組の概要、分析
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度補正予算について ・令和7年度当初予算について <p>教職員の資質能力の向上を図り、先見性・多様性のある人材の育成に努めました。教職員の働き方改革による業務改善の推進、教職員の心身の健康保持、健全な職場環境を整えた上で、校長の学校経営方針、勤務年数、本人希望等も含め、教育事務所と十分な情報交換・協議を行い、市町交流や管外交流を有効に活用しながら適正配置に努めました。さらに、適正な手順による各委員等の任命・委嘱を行いました。</p>

特記事項(前年度比等)

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	5	要保護及び準要保護の認定に関すること		
小項目				

目標
議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

取組の概要、分析
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の認定者数119名（要保護1名、準要保護118名） ・却下の人数13名（小学校10名、中学校3名） ・認定者の内訳 小学校70名（要保護0名、準要保護70名） 中学校49名（要保護1名、準要保護48名） <p>支給額 5,040,460円</p> <p>適正な審査により、経済的な理由で就学困難と認められる児童生徒の保護者に必要な援助を行うことができます。今後においても、全ての児童生徒が義務教育を等しく受けることができるように努めていきます。</p>

特記事項(前年度比等)
<p>前年度と比較すると要保護・準要保護数が小学生で6名、中学校で3名減少しており、それに伴い、支給額も減少しています。</p>

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	6	高校魅力化推進事業に関すること		
小項目				

目標

県立南宇和高等学校の魅力化を推進し、生徒の人材育成及び教育環境の向上を目指し、生徒数の確保及び学校の存続につなげる。

取組の概要、分析

○南宇和高等学校魅力化推進事業

1. 進学意識及び進学イメージの向上

大学等の進学への意識向上のために、高校入学後の早い段階又は高校入学前の中学生の時点から進学意識や進学意欲の向上を図ることにより、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成します。

地域おこし協力隊制度を利用して、町外からのスタッフ4名で南光叶夢センターを運営しました。

2. 南宇和高校での給食実施

令和5年6月から、愛南町学校給食センターを有効活用して給食を希望する南宇和高校生にバランスの良い温かい食事を提供するとともに、保護者の負担の軽減を図っています。

○南宇和高等学校教育振興協議会補助事業

平成27年度から、南宇和高校における教育の振興のため補助事業を実施しています。活力ある町づくりに寄与できる広い視野と行動力を持った人材や新しい時代の要請に応える産業技術者の育成を目指しています。

特記事項(前年度比等)

令和6年度は、南光叶夢センタースタッフが1名減員し、4名での南光叶夢センター運営となりました。

南宇和高等学校魅力化推進事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	237
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本事業	99 施策の総合推進	目	02 事務局費	計画 年度	開始：令和04年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
南宇和高等学校の魅力化推進事業として、「進学意識の向上」及び「新時代を担う人材の育成」を目的とし、「勉学」と「地域連携」により豊かな未来を創造する個性あふれる生徒の育成のため事業を実施しました。具体的には、地域おこし協力隊員をスタッフとして「南光叶夢センター」を運営しました。 【実績】 ・南宇和高等学校魅力化推進事業アドバイザー業務委託料 10,973千円

特定財源情報
ふるさとづくり基金繰入金 10,000千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	事業参加者数 (人)	46	89	101
	活動	(人)			
	成果	南宇和高等学校の志願率 (町内中学校) (%)	65.3	68.6	70.6
	成果	(人)			
事業費 (千円)	財源内訳		ア 国	0	0
			イ 県	0	0
			ウ 地方債	0	0
			エ その他	0	10,000
			オ 一般	10,554	12,466
	カ 事業費 (ア～オ合計)		10,554	12,466	12,017

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 南宇和高等学校の魅力化推進事業を実施しています。 (原因) 少子化の中、南宇和高等学校の入学者が減少しています。愛媛県県立学校振興計画で再編整備基準が明示される中、南宇和高等学校への入学者の上昇につながるように南宇和高等学校の魅力ある事業の発信や魅力ある事業の実施が必要となります。 (余地) 特に町内の中学生及び保護者、小学生及び保護者に対し南宇和高等学校の魅力を発信することが重要となっています。また、保護者が必要と感じるニーズへの対応も同時に重要となります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

南宇和高等学校教育振興協議会補助事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	239
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費	計画 年度	開始：平成27年度 終了：令和 年度
基本 事業	99 施策の総合推進	目	03 諸費		

手段 (R06年度の取り組み)
<p>愛南町、愛南町教育委員会及び県立南宇和高等学校等で構成する南宇和高等学校教育振興協議会が実施する事業に対して補助金を交付しました。</p> <p>【南宇和高等学校教育振興協議会事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を支える人材や産業技術者の育成 ・グローバルな視野を持って行動できる人材を育成するための海外研修の実施 ・地域に根ざした新しい産業教育に関する研究や情報交換・提言 ・学校教育活動の充実に対する支援 ・英語4技能外部検定(GTEC)の受験料の助成 ・遠距離通学者への通学費の助成 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南宇和高等学校教育振興協議会補助金 8,700千円

特定財源情報
ふるさとづくり基金繰入金 8,700千円

活動・ 成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助金額 (千円)		4,770	5,300	8,700
	活動					
	成果	補助を受けた各種活動に参加した生徒の人数 (人)		464	562	547
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	4,500	4,500	8,700	
		オ 一般	270	800	0	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	4,770	5,300	8,700	

成果 実績 評価	成果状況	<p>(状況)活動に参加した生徒の人数は、前年度より2.7%減少しました。</p> <p>(原因)新型コロナウイルスの影響が少なくなり、各種事業が元に戻ったものの、生徒数の減少により各種事業に参加した人数も減少したためと思われます。</p> <p>(余地)生徒数の大きな回復は見込めませんが、協議会が各種活動へ補助を行うことで地域に根差した人材育成を図っていきます。</p>
	<p>向上</p> <p>維持・横ばい</p> <p>低下・悪化</p> <p>成果向上余地</p> <p>大</p> <p>中</p> <p>小</p> <p>なし</p>	

- 学校運営協議会への参加を大いに評価する。今後、学校と地域とのつながり強化は喫緊の課題であり、教育委員会の力強いサポートは心強い。
- 篠山小中学校については、地域の意見を反映した協議がなされていることを評価したい。今後に向けて、前向きな道を模索してほしい。
- 南宇和高校への魅力化推進事業は、今後の愛南町教育の重要な施策となる。計画とリフレクションを行いながら、着実に推進していることを大いに評価する。町内中学校からの進学率も上昇している。効果が出てきている。
- 学校運営協議会に参加して、各地域における今後の学校のあり方や運営方針について意見聴取を行ったことを評価する。我が子の事となると必死な思いを伝えてくる保護者に対し、親身になって誠意ある対応をされたと思う。
- 進学意識及び進学イメージの向上への取り組みを評価する。南宇和高校は町内唯一の高校であり、他校との競争意識が低くなりがちのところだが、将来の人生設計について積極的に意識づけを図っていることを評価する。
- 教育委員会の事務全般について、適切に管理執行されている。
- 各学校の運営協議会に参加し、意見を聴取し施策に生かしていることを評価する。
- 県立南宇和高等学校の志願率が、2年連続上昇していることを評価する。今後も更なる魅力化推進事業の推進により、生徒の町外募集にも期待する。
- 南宇和高校の魅力化推進事業は、地域内外、県内外へも発信し、長期的な計画で、専門家も交えた取組を今以上に加速してもらいたい。
- 南宇和高校の卒業生は他ではできない特別な体験をしている、更にその体験が就職活動の面接において面接官に「南宇和高校の卒業生ならば面白いかも」と思ってもらえるような「魅力化」であってほしい。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	1	確かな学力の定着向上		

目標

児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導や1人1台端末を活用した学習、ICT教育の更なる充実等、及び家庭との連携による学習・生活習慣の確立により、児童生徒の確かな学力の定着と向上を図る

取組の概要、分析

○全国学力・学習状況調査

- ・調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒
- ・実施日 令和6年4月18日（木）
- ・調査事項 小（中）学校：国語（国語）、算数（数学）

小学校では、前年度、国語、算数ともに全国平均を上回っていましたが、今年度はどちらも全国平均を大きく下回る結果となりました。

中学校では、前年度、国語、数学ともに全国平均並みでしたが、今年度は国語において、全国平均を少し上回る結果となりました。数学については、全国平均並みでした。

児童質問調査では、前年度に引き続き良好な点として、小・中学校とも挑戦心・自己有用感・幸福感に関する項目において、肯定的な意見が多く見られました。また、授業の中でICT機器の使用や対話的な活動が、かなりの頻度で取り入れられている傾向にありました。特に小学校では、ICT機器の使用について、楽しみながら自分のペースで学習に取り組めており、考えを共有する手段として広く活用されていることが分かりました。

課題としては、教科に関する調査に取り組む際に、解答時間が不十分と答えている児童・生徒が多いことから、問題を読むスピードが遅く、情報を素早く整理する力が不足していると思われます。全ての教科の基盤として、文章を早く正確に読み取ることが問題を解く前提になるため、多くの本や文章との出会いを推し進め、最後まで根気強く読むことや繰り返し文章を読むことで、記述された内容を正確に理解する力が身に付くよう取り組む必要があります。そして、知識及び技能の定着とその活用を一体的に捉えた学力の育成を図るためには、アナログとデジタルそれぞれの良さを適切に生かし（アナログとデジタルのベストミックス）ながら、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を継続していく必要があります。また、家庭でのICT機器の活用については、学習のために使用するよりも、SNSや動画視聴に使用する頻度が高い傾向にあることから、家庭での自己管理や学習の仕方についても、継続した指導が必要です。

特記事項(前年度比等)

令和6年度は、小・中学校の調査において国語科、算数・数学科が実施されました。

取組の詳細

〔学力調査の結果分析〕

小学校の教科に関する調査では、国語科、算数科ともに、正答率が全国平均を大きく下回っていました。特に国語科の「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題では、文の構成が理解できておらず、主語と述語の関係が捉えられていなかったり、漢字を正しく使えなかったりする傾向にありました。また、「話すこと・聞くこと」に関する問題では、聞き手の求めていることに気付くことはできますが、それに対して表現を工夫して伝えたり、伝え合う内容を検討したりすることに課題が見られました。算数科では、どの項目（数と計算、図形、変化と関係、データ活用、知識・技能、思考・判断・表現）においても厳しい現状でしたが、特に「数と計算」に関する問題では、問題の文脈に沿った数量の関係を捉えることや、計算に関して成り立つ性質を活用し、計算の仕方を工夫することに課題が見られました。また、「データの活用」に関する問題においても、データから必要な数値を読み取ったり、必要な数値を数理的に処理したりすることに課題が見られました。これらの改善策として、要因を詳細に分析したうえで、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を継続し、知識及び技能の定着とその活用を一体的に捉えた学力の育成を図っていく必要があります。

小学校の児童質問紙調査では、「学校に行くのは楽しい」、「授業内容はよく分かる」、「授業でＩＣＴをよく使用する」などの項目が、良好な結果でした。一方で、「平日、授業以外に１時間以上勉強する」、「先生や大人に相談できる」の項目の回答が、全国平均を下回る結果でした。このことから、今後、基礎・基本の定着に向けた家庭学習の必要性を指導するとともに、児童との対話を通して関わる機会を多く設けるなど、相談体制の構築を学校、家庭、地域が一体となって行っていく必要があります。

中学校の教科に関する調査では、国語科、数学科ともに、正答率が全国平均とほぼ同等でした。国語科では、昨年度に課題であった「書くこと」に関して、今年度全国平均を大幅に上回っていました。ただ「読むこと」に関しては、昨年に引き続き課題が見られました。文章の具体と抽象など、情報と情報の関係について理解して読み取ることができず、必要な情報に着目して要約することが難しかったようです。数学科では、特に、表やグラフをなどからデータの傾向を適切に読み取ったり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりするなど、「データ活用」に関して、全国平均を大幅に上回っていました。ただ、「図形」に関する問題の中で、図形の性質を論理的に考察することや、性質に着目した新たな発想が乏しい傾向にありました。これらの改善策として、今後も読解力の育成に向けた取組を推進し、言語活動の充実を図る授業改善に取り組む必要があります。

中学校の生徒質問調査では、「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたい」、「授業でＩＣＴをよく使用する」などの項目が、良好な結果でした。一方で、「数学の授業内容がよく分かる」、「平日、授業以外に１時間以上勉強する」、「先生や大人に相談できる」の項目の回答が、全国平均を大幅に下回る結果でした。このことから、今後、課題となる要因や詳細を分析し、生徒にとって「分かる、できる」を実感できる授業となるよう授業改善を推進するとともに、基本的な学習習慣の確立に向けた取組を、学校と家庭が連携してより一層推進していく必要があります。

その他にも、小・中学校とも、調査に対する解答時間が不十分と答えていることから、問題を読むスピードが遅く、情報を素早く整理する力が不足していると思われます。また、家庭でのＩＣＴの活用については、学習のために使用するよりも、ＳＮＳや動画視聴に使用する頻度が高い傾向にあることも分かっています。

これらの結果から考えるべき対策は、全ての教科の基盤として、文章を早く正確に読み取ることが問題を解く前提となるため、多くの本や文章との出会いを推し進め、最後まで根気強く読むことや繰り返し文章を読むことで、記述された内容を正確に理解する力（読解力）を年齢が低い内から身に付くように取り組む必要があります。

学校活動支援事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	239
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	03 諸費		

手段 (R06年度の取り組み)

教職員の働き方改革や部活動の地域移行改革等への対応として県補助事業及び町単独事業でスクール・サポート・スタッフ及び部活動指導員を配置しました。
学校地域コーディネーターを学校に配置し地域と学校の情報共有や教職員の負担軽減につなげました。
中学生の英語検定受験料を助成しました。
町内での発表会や体育大会に出場する児童生徒の移送経費を負担しました。

【実績】

- ・会計年度任用職員報酬 6,014千円
- ・事業協力員謝礼 2,309千円
- ・英語検定受験料補助金 155千円
- ・臨時運転手謝礼 105千円 他

特定財源情報

- ・スクール・サポート・スタッフ配置事業補助金 2,434千円
- ・地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金 108千円

活動・ 成果状 況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	配置校数 (件)		16	16	12
	活動	児童生徒の移送件数 (件)		1	2	6
	成果	配置効果割合 (%)		100	100	91.4
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	1,972	2,572	2,542	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	2,273	8,211	8,747	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	4,245	10,783	11,289	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 教員の負担軽減により教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備しています。また、授業等における児童生徒の移送が円滑に行われています。 (原因) スクール・サポート・スタッフの配置及び学校共同事務室での調整によるものと考えます。 (余地) 愛媛県の補助事業対象となる人材だけでなく、町単独でのスクール・サポート・スタッフの配置を行うなど教職員の負担軽減を実施しています。また、移送事業においては町のマイクロバスを利用するなど経費の削減を行っています。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

外国人英語指導助手設置事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	235
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	02 事務局費		

手段 (R06年度の取り組み)

- ・ALTを各中学校に配置し、授業だけでなく学校生活の中で生徒が英語に触れられる機会を作りました。
- ・ALTが週に2回程度各小学校を訪問し、外国語活動や外国語の授業に参加しました。休み時間や給食の時間を活用し、児童が英語に慣れ親しむ機会を作りました。

【R6】JETプログラムALT：3人、8月以降2人、業者委託ALT：2人

【実績】

・費用弁償 260千円 ・消耗品費 77千円
 ・保険料 57千円 ・委託料 10,692千円
 ・家電製品購入費 206千円 ・負担金 184千円

特定財源情報

ふるさとづくり基金繰入金 10,000千円

活動・ 成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	小学校の外国語指導助手年間勤務時間 (時間)		1,820	1,875	1,335
	活動	中学校の外国語指導助手年間勤務時間 (時間)		2,860	3,110	1,955
	成果	各校長によるALTの優良評価の割合 (%)		100	100	100
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	7,000	10,400	10,000	
		オ 一般	4,584	896	1,476	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	11,584	11,296	11,476	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 小学校の英語の授業にはALTが参加しており、児童が英語に触れる機会が確保されています。中学校においても、ALTの授業参加により学習指導が効果的に実施されています。
	成果向上余地 大 中 小 なし	(原因) ALTが積極的に児童生徒と関わりを持ち、交流することができています。 (余地) JETプログラムではALTの派遣年数は最長5年となっています。ALTの入れ替えが途切れなく行われることで、同様の成果が期待できます。

学校ICT管理事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	235
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	02 ICTを活かした教育の推進	目	02 事務局費		

手段 (R06年度の取り組み)

- ・PC機器及びネットワーク整備を行い、ICT環境の向上を図りました。
- ・適正なネットワーク環境等を維持するために、修繕対応及び保守管理を委託しました。
- ・OA機器に係る消耗品の購入を行いました。
- ・ICT支援員による、研修会の開催、機器等の不具合対応を行いました。

特定財源情報

- ・篠山小中学校組合システム等使用負担金 2,873千円
- ・ふるさとづくり基金繰入金 4,720千円

区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
活動・ 成果 状況	活動 ICT機器の設置台数 (台)	1,551	1,585	1,581
	活動 ICT機器の効果的な活用 操作研修会の開催回数 (回)	14	5	3
	成果 ICT機器整備率 (%)	100	100	100
	成果 ICT機器の活用状況 (%)	99	99	100
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0
		イ 県	0	0
		ウ 地方債	0	0
		エ その他	17,272	54,308
		オ 一般	19,596	39,338
		カ 事業費 (ア～オ合計)	36,868	93,646

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	<p>(状況) 教員のICT機器の活用については、引き続き高い割合で活用できているとの回答結果がでています。 (原因) GIGAスクールサポーターの配置及びICT支援員の活用により、教員のICTに関する知識及び技術を高められたと考えられます。 (余地) 校務用機器の老朽化による不具合が生じており、機器の更新をすることで、校務を快適に行うことができると考えられます。</p>
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	2	生徒指導の徹底と健全育成		

目標

いじめ・不登校問題の未然防止と早期対応に努め、家庭や地域及び関係機関と連携しながら生徒指導の充実を図る

取組の分析

愛南町の小中学校において認知されたいじめ事案については、現在も継続しているケースやこじれて長期化しているといった問題等はありません。ただし、各学校において指導的な役割を果たす教職員が、今以上にいじめの未然防止及び早期発見に必要な組織的な生徒指導体制を構築するための手法等を習得していく必要があります。今後も継続的に研修を積み、いじめ問題に対応していきます。

- ・ 校長・生徒指導主事合同研修会を開催しました。愛媛大学教育学部の白松賢教授を講師としてお招きし、「保護者のクレームが相談にかわる生徒指導体制の確立」と題して御指導いただき、研修を深めました。【実施日：令和6年7月1日】
- ・ 今年度も、「愛南町いじめ問題対策連絡協議会」を設置し、関係機関との連携を図りました。協議会では、愛南町でのいじめ問題の現状や取組を説明し、それに対する指導や助言をいただくとともに、次年度に向けた基本方針の見直しを図りました。【実施日：令和7年2月21日】

また、SNS等、インターネットを介したいじめは、その閉鎖性から発見自体が困難であり、深刻な問題になるまで教員も保護者も気付くことが難しく、対応が後手に回ってしまう傾向にあります。本町においても警察等との連携を図りながら、早期発見・解決の啓発に努めています。

- ・ 「警察と連携したいじめ対応について」の通知文を小・中学校全家庭に配付し、啓発に取り組んでいます。

不登校事案については、児童生徒数に対して多い傾向にありますが、全国平均は下回っています。様々な要因が考えられますが、児童生徒やその保護者等に寄り添い、関係機関と連携を図りながら、包括的に支援と改善に向けた取組を継続していく必要があります。

- ・ 不登校事案や配慮を要する児童生徒の情報共有として、月に1回程度「愛南町こども支援センター運営委員会」を開催しています。その中で、児童生徒の状況を確認し、支援につなげていく方法を話し合っています。

人権意識を高め、人に優しく、温かい愛南町でありたいと考えます。今後も、児童生徒の笑顔のために、いじめ問題防止、不登校対策等に粘り強く取り組んでいく必要があります。

特記事項(前年度比等)

昨年度と同様に、不登校の要因として全国的に多くの割合を占めているのが「無気力・不安」「親子の関わり方」「生活リズムの乱れ等」であり、本町においても同様の傾向が推察される。

取組の詳細

○いじめ・不登校等の状況

〔いじめとして報告があった件数 小学校（5件） 中学校（5件）〕

令和5年度と比較すると、小学校で4件、中学校で1件減少しました。

各学校における定期的な教育相談やアンケート、校内生徒指導委員会（児童生徒を見つめる会）による実態把握を継続し、いじめの積極的認知、早期解決と心の相談体制の構築等の取組が功を奏していると言えます。また、学校がいじめを認知した場合には、基本方針に基づき、「いじめ詳細メモ」にて本教育委員会に詳細を報告しています。

いじめ防止対策推進法の中のいじめの定義、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」を、職務別研修会等において、教職員に対し繰り返し伝え、いじめの早期発見、早期解決、未然防止に連携して努めています。

また、児童生徒を守り育てる協議会（年間2回実施）、教育相談員学校訪問（7～8月中）、スクールガード・リーダー巡回指導（学期に1回の年間3回）等により、継続して児童生徒の実態把握についての情報共有、共通理解を図り、組織的にいじめ防止対策に努めています。

〔不登校（30日以上欠席）として報告があった児童生徒数〕

小学校（7名） 中学校（12名）

令和5年度と比較すると、小学校は増減なし、中学校で1件減少しました。

不登校児童生徒については、様々な要因が考えられますが、それぞれの児童生徒及び家庭環境の状況を考慮し、学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、町子ども支援センター、宇和島市こども支援教室「わかたけ」、町保健師、南予子ども・女性支援センター等の関係機関と連携を密にしながら、心の居場所づくりと教育活動の保障を行い、児童生徒及びその保護者等に寄り添いながら、包括的に対応していく努力をしています。

○愛南町いじめSTOP愛A I サミット〔令和6年8月23日（金）〕※今年度は参集して実施

対象者 町内の小中学校の代表児童生徒、教職員（28名）

目的 参加児童生徒一人一人が、いじめ問題にしっかりと向き合い、深く考え、自らの意識を見つめ直すとともに、活動や意見交換を通して、いじめ防止のための中心的なリーダーとしての意識を高め、自校でのいじめ問題の解決に向けた取組の推進に貢献することを目指します。

- ・ グループワーク①（グループエンカウンター「宝探し」）
ねらい：みんな対等の関係で、一人一人が不可欠であることに気付く等
- ・ グループワーク②
各校のいじめSTOPの取組発表と意見交流
愛南町ネットいじめSTOP愛AI宣言の見直し
全体での共有とまとめ

○いじめ・不登校等相談員等の活用

愛南町子ども支援センターにおいて、いじめ・不登校等相談員を兼務する所員4名が、平日午後2名ずつの輪番（長期休暇中は1名）で常駐しています。

子ども支援センター（いじめ・不登校等相談員）での相談活動

・ 来所相談 311件 ・ 電話相談 3件 ・ 学校訪問 12回

相談員の学校訪問は、全小中学校を対象に実施し、配慮を要する児童生徒の情報の共有と関わり方に関する協議を行いました。ケース会議への出席の要請がある場合にも訪問しました。

また、月1回、子ども支援センターでの運営会議を開き、町教育委員会、いじめ不登校等相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等でいじめ・不登校に関する情報共有と対策についての検討を行い、個々に応じた対策を参加者で協議し、関係機関との連携につなげることができています。

○スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の活用

スクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置し、御荘中学校及び城辺中学校を拠点としてに要請に応じた訪問活動を行い、学校の要望に対応できる相談活動や支援の拡充を図りました。

心の教育推進事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	239
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費	計画 年度	開始：平成19年度 終了：令和 年度
基本 事業	03 心の教育の充実	目	03 諸費		

手段（R06年度の取り組み）

・いじめ・不登校等相談員による電話相談や通所相談を行いました。
 ・スクール・ソーシャルワーカー等による相談・活動を行いました。
 ・町子ども支援センターでの相談及び利用を個別のニーズに応じて行いました。
 ・学校を通じ家庭へチラシを配布し、一人で悩まず、先ず相談をするよう啓発しました。
 ・通級指導教室の利用を可能とし、学習面のサポートの選択肢を増やしました。
 ・不登校児童生徒支援事業は、平成30年度から宇和島圏域共生ビジョンに位置付け運営に係る必要経費を負担し、取り組んでいる事業です。
 ・町スクールカウンセラーを配置し、多角的な支援を行える体制とします。

【実績】

・スクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラー報酬 1,652千円
 ・いじめ不登校等相談員謝礼 1,952千円

特定財源情報

愛媛県スクールソーシャルワーカー活用事業費補助金 440千円

活動・ 成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	利用者数（人）		316	250	510
	活動	相談員・ソーシャルワーカー等の設置人数（人）		4	8	8
	成果	改善された割合（対相談件数）（％）		50	50	50
	成果					
事業費 （千円）	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	825	440	440	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	3,266	4,041	4,497	
		カ 事業費（ア～オ合計）	4,091	4,481	4,937	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	（状況）不登校傾向にある児童生徒数名が利用しており、心の居場所としての機能を発揮しました。 （原因）家庭環境など子供の置かれている状況が、年々複雑化及び多様化する傾向にあります。 （余地）保護者と意思疎通を図りつつ、理解を得ながら、学校や専門機関との連携による対応がこれまで以上に重要となっています。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	3	教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化及び業務改善		

目標
<p>児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指し、各種研修制度を活用して教職員の専門的知識・能力と社会人としての資質の向上を図るとともに学校組織の活性化に努める</p>

取組の分析
<p>○学校訪問による授業評価の活用 南予教育事務所・愛南町教育委員会合同学校訪問による、南予教育事務所担当管理主事及び町教育委員からの学校環境や授業等についての指導講評を活用し、更なる学校教育の質の保障・向上を目指すとともに、分かる喜びと学ぶ楽しさを感じさせるような「よい授業」（※子供たちが意欲的で、主体的に学ぼうとしている授業、子供が「わかった」「できた」という達成感が得られる授業）を行うことができるように、教育委員会としても各校を見守りつつ、指導・改善を心掛ける等、連携・協働、支援に努めました。</p> <p>○職務別研修会、教科・教科外研修会の充実 校長研修会（11回）、教頭研修会（3回）、研修主任等研修会（9回）等を実施し、周知事項の徹底や職務別の研修を行いました。研修テーマによっては、校長と生徒指導主事、教頭と教務主任等、合同での研修会を開催するなど、研修内容の共有や業務の効率化を図るようにしました。</p> <p>令和の日本型学校教育を実現する「新たな教師の学びの姿」として、個別最適化された学習と協働的な学習、ICTを活用した学習等に即応できるよう教職員の資質向上を図ります。複式学級学習支援員及び特別支援教育支援員が学級担任等との連携によって複式教育や特別支援教育のニーズに添えるようにします。愛媛県の教職員育成指標（人間力・実践的指導力・組織力・信頼構築力）をベースに、「学び成長し続ける教職員」を目指します。</p>

特記事項(前年度比等)

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	4	特色ある学校づくり		

目標

学校の創意工夫を生かした特色ある学校、地域とともにある学校づくりを推進する

取組の分析

○学校評価の実施と活用

学校における自己評価、学校関係者評価の実施と結果の公表
全小中学校で、年2回の自己評価・学校関係者評価を実施しています。
学校評価については、統一質問項目（愛南町総合計画「後期基本計画」に関わる内容6項目）を定めて活用しています。学校評価の実施に当たっては、業務負担を軽減するため、WEBアンケート形式で実施しています。

各校での評価結果と対策については、学校だよりやホームページ等で公表し、学校経営の改善に努めています。

○えひめ教育月間（愛媛教育の日）関連事業の推進

各校で、実情に合わせ、地域性を生かした取組が実践されています。

○コミュニティ・スクールの推進

愛南町は、全小中学校がコミュニティ・スクールとして、協力的な人的資源の強みを生かしながら、つながりと地域の特色を生かした学校経営を行っています。今後も継続して、よりよい「地域とともにある学校」づくりを行っていきます。その一助として、学校と地域をつなげる役割となる「地域コーディネーター」を、各学校へ配置しています。

【地域コーディネーターの役割】

・交流会（地域の方等から学ぶ）の企画、人材バンクの作成、職場体験学習の調整、学校運営協議会への出席等

○特色ある学校経営

各学校それぞれが、「家庭・地域とともにある学校」を目指して、地域とつながり、地域の貢献できる児童生徒の育成に取り組んでいます。

・海学習、俳句学習、防災学習（防災マップづくり、自主防災会との連携）、交流学习、食育教育等

特記事項(前年度比等)

令和5年度から学校地域コーディネーターを複数の学校で配置しました（令和6年度は13校中12校に配置）。学校と地域との連携の促進や地域における体験学習等の教材化支援等を行い、地域の文化や伝統を継承し、人的・物的環境を活用するとともに、教職員の負担軽減につながっています。

小学校振興事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	243
施策	01 学校教育の充実	項	02 小学校費	計画 年度	開始：令和05年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	02 教育振興費		

手段（R06年度の取り組み）

児童の教育活動について確かな学力の向上や社会性を育て、感受性豊かな児童の育成に繋がる事業を実施しました。
修学旅行、各種大会出場に係る経費及び総合学習活動等に対して補助及び全ての児童に義務教育を実施するために必要な援助を行いました。

【実績】

- ・デジタル教科書購入費 26,455千円
- ・大会等参加助成金 870千円
- ・遠距離通学費助成金 632千円
- ・要保護及び準要保護児童就学援助費 1,831千円
- ・車借上料 2,884千円 他

特定財源情報

- ・特別支援教育就学奨励費補助金 136千円
- ・遠距離通学費援助事業費県補助金 157千円

活動・ 成果状 況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	図書購入数 (冊)		1,626	1,482	1,303
	活動	講座、校外活動等の実施回数 (回)		136	151	129
	成果	学習意欲が向上している児童の割合 (%)		93.6	70.3	84.7
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	129	134	136	
		イ 県	267	157	157	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	18,158	17,744	45,481	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	18,554	18,035	45,774	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	（状況）全国学力・学習状況調査の結果では、学習習慣等の肯定割合をみると、ほぼ横ばいとなっています。 （原因）学校での丁寧な学習指導により、授業が分かるという児童の割合は高いものの、家庭での学習習慣が不十分な傾向にあります。 （余地）家庭学習の習慣化と内容の改善を検討する余地があります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

中学校振興事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	247
施策	01 学校教育の充実	項	03 中学校費	計画 年度	開始：令和05年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	02 教育振興費		

手段 (R06年度の取り組み)

生徒の教育活動について確かな学力の向上や社会性を育て、感受性豊かな生徒の育成に繋がる事業を実施しました。
修学旅行、各種大会出場に係る経費、総合学習活動、海外研修等に対して補助及び全ての生徒に義務教育を実施するために必要な援助を行いました。

【実績】

- ・海外研修事業委託料 8,664千円
- ・大会等参加助成金 7,982千円
- ・要保護及び準要保護生徒就学援助費 3,209千円
- ・遠距離通学費助成金 1,898千円
- ・総合学習活動交付金 670千円 他

特定財源情報

- ・中学生海外研修事業個人負担金 480千円
- ・要保護生徒就学援助費補助金 35千円
- ・特別支援教育就学奨励費補助金 20千円
- ・過疎対策事業債 7,400千円

活動・ 成果状 況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	図書購入数 (冊)		765	707	734
	活動	講座、校外活動等の実施回数 (回)		12	12	15
	成果	学習意欲が向上している生徒の割合 (%)		89.5	58.6	81.9
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	60	5	55	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	7,500	7,400	
		エ その他	0	440	480	
		オ 一般	25,254	20,821	22,199	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	25,314	28,766	30,134	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 全国学力・学習状況調査の結果では、学習習慣等の肯定割合をみると、ほぼ横ばいとなっています。 (原因) 学校での丁寧な学習指導により、授業が分かると言う生徒の割合は高いものの、家庭での学習習慣が不十分な傾向にあります。 (余地) 家庭学習の習慣化と内容の改善を検討する余地があります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	5	豊かな心を育てる教育の推進		

目標

他者を思う気持ち、思いやりの心や感動する心、正義感や社会貢献の精神等、豊かな人間性を養う

取組の分析

○道徳科の授業の充実と体験活動を通じた学びの充実

「自他の生命の尊さ」を認識させる指導を徹底するとともに、全ての教育活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念等の道徳心を培う指導や体験活動を充実させました。また、福祉学習やボランティア活動、地域社会との交流を通じて、他者を思いやる行動を実践しました。活動後には、自身の行動や感じたことを振り返り、他者への思いやりがどのように発揮されたかを考えることで、自己の成長を実感し、更に他者を思いやる気持ちを高めました。

道徳科や学級活動等の授業を中心に「いじめの防止」や「命の大切さ」について繰り返し指導していくことで、他者の気持ちを理解し、共感する力や他者の命を尊重する力を育んだり、自己肯定感を高めたり、他者と円滑にコミュニケーションを取る力を育てたりしています。

学校行事など豊かな体験活動を通して、自尊感情を高めるとともに、児童生徒の自立心や自律性を育成する指導を充実させました。

規範意識を確実に身に付けさせ、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てる指導を充実させました。

- ・「考え、議論する道徳」の授業の充実（※対話による深い学び）
- ・性別にとらわれない適性に応じた教育の推進（※ジェンダー教育）
- ・キャリアパスポートの活用等によるキャリア教育の充実
- ・職場体験活動（ジョブ・チャレU-15）、福祉体験活動、ボランティア活動、自然体験活動等の積極的な実施
- ・運動会（体育祭）、文化祭、修学旅行、集団宿泊訓練等、学校行事でのリーダーシップの発揮や模範行動
- ・交通安全教室や情報モラル教室、性教育講座等の実施

特記事項(前年度比等)

児童生徒が自らの生き方や価値観について深く考え、他者と意見を交換しながら多様な視点で学ぶことを意識した「考え、議論する道徳」を今後も継続して進めていく必要があります。また、異なる環境や状況での学びや体験を通して、豊かな人間性を育てていくとともに、予測困難な社会に対し、コミュニケーション能力を高め、柔軟に対応できる児童生徒を育てていく必要があります。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	6	人権・同和教育の充実		

目標

すべての教育活動の中で、あらゆる差別や偏見を解消するための人権・同和教育を推進する

取組の分析

○校区別人権・同和教育懇談会の開催

全小中学校で、保護者や一部の地域住民を招いて、人権学習や道徳科等の授業公開、講演会、話し合い活動等様々な取組が行われました。

○人権・同和教育補助資料の活用

南宇和郡人権・同和教育部会が作成した補助資料の改善を図り、年間指導計画に位置付けながら、各学校において活用しています。郡内統一教材の見直し等を行い、効果的な資料の活用を行っていくことが必要です。

各校において、学級経営、生徒指導、道徳教育等の計画を作成するにあたり、人権を尊重した内容になるよう考慮して構成しています。今後も、一人一人の教職員が、差別の現実学ぶことを基本理念とし、同和問題をはじめとする、様々な人権問題解決への確固たる姿勢を確立するとともに、人権意識を高めるための研修を企画運営し、教職員の資質能力の向上に努めていきます。

特記事項(前年度比等)

南予地区人権・同和教育研究大会が宇和島市で令和6年10月29日(火)に開催され、午後の分科会では家串小学校が実践報告を行いました。テーマを「『共に考え、認め、高め合う』家串の子を育てるために～プロジェクト型組織運営の具現化を通して～」とし、家串小学校で人権意識を高めるために取り組んでいる日々の活動を紹介し、その取組における児童や教職員、地域の変容について発表しました。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	7	特別支援教育の推進		

目標
<p>児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る</p>

取組の分析
<p>○支援員の配置と活用 特別支援学級及び配慮が必要とされる児童生徒の在籍する通常学級へ特別支援教育支援員を配置し、学級担任と協力しながら適切な支援に努めました。</p> <p>○就学指導体制の充実 教育支援委員会の開催（年4回開催） 配慮を要する幼児・児童生徒の就学にあたり、障がいの種類・程度等に応じて総合的な判断を行うため教育支援委員会を開催し、教育学・医学・心理学等の専門的知識を有する者から意見聴取のうえ、適切な就学指導を行いました。 教育支援委員による教育相談 町就学相談（12件）</p> <p>○通級指導教室による指導・支援の充実 通級指導教室の開設（平城小、城辺小、城辺中、御荘中（城辺中巡回指導）） 48名（自校48名）が通級</p> <p>○特別支援学級による指導・支援の充実 特別支援学級の開設 9校 16学級 47名 支援員32名</p>

特記事項(前年度比等)
<p>配慮の必要な児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な指導及び必要な支援を行っています。</p> <p>特別支援教育に携わる教職員等の資質向上を図るため研修会を開催し、配慮を要する児童生徒が豊かな学校生活を送るために必要な支援等について検討を行いました。</p> <p>該当児童生徒を中心とした支援の在り方を確認し、保護者・教職員・教育支援員との意思疎通を図りながら必要な支援を実践しています。</p> <p>各幼保育所、小中学校や関係機関との連携を引き続き継続し、情報の共有と具体的な支援の在り方等を協議しながら、より良い体制づくりを進めていきます。</p>

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	8	健康教育の推進		

目標

運動を通じて体力を養うとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成しよう

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用
愛南町の全小学校の５年生、全中学校の２年生対象】
- 食育推進事業の推進

取組の分析

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用
新体力テストの内容
＜小学校＞
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの８項目。
全国平均と比較し、男女とも高い結果となりました。男子は６項目、女子は７項目で全国平均を上回りました。
＜中学校＞
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの８項目。
全国平均と比較し、男子は高い結果、女子は非常に高い結果となりました。男子は５項目、女子は７項目で全国平均を上回りました。
- 食育推進事業の推進（令和６・７年度町指定校：一本松小学校）
健全な食生活の実践として、栄養教諭や愛南町栄養士との関わりはもちろん、食生活改善推進委員や婦人会、食生活を考える会、地元の農家の方々から多くの協力を得て、栽培から収穫、食事作りといった体験活動を取り入れたり、栄養のバランスを考えた食事の取り方や食べ方、運動習慣など生活習慣病予防のための指導など、保育所をはじめ、幼稚園、小・中・高校と、年代に応じた食に関する指導を実践しています。また、各学校からは食育だよりや保健だより、栄養教諭、栄養士からは学校栄養士だよりや給食だよりを各家庭に配付し、食育についての継続した啓発活動に努めています。

特記事項(前年度比等)

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果については、全国と比較しても高い傾向でしたが、児童生徒の体力や運動に親しむ習慣には格差があることが分かりました。特に小学校では、男女とも「運動が好き・やや好き」「１週間の総運動」「朝食を毎日食べる」の割合が低いことが気になります。中学校についても、男女とも「１週間の総運動」「朝食を毎日食べる」の割合が低い状況でした。今後は、健康増進につながる体力向上の必要性を理解した上で、学校における運動時間の確保はもちろん、家庭でもできる簡単な運動の紹介や実施を呼び掛け、生涯にわたって運動の習慣化が身に付くような、工夫した授業改善や情報の提供の必要性が推察されます。また、子供たちのやる気を引き出せるよう、パーフェクト自己新記録賞の取組を継続していきます。

他にも「朝食を毎日食べる」割合が低いことを考え、食育活動の推進に向け、家庭や関係機関との連携を深めるとともに、各校での取組を共有しつつ、引き続き、食を通した生活習慣づくりの充実に努めていく必要があります。

取組の詳細

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用

新体力テストの内容

＜小学校＞

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの8項目。

●男子

全国平均と比較し、高い結果となりました。20mシャトルラン、立ち幅跳びを除く6項目で全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「スクリーンタイム（3時間未満）」の割合が高くなっており、「運動が好き・やや好き」「1週間の総運動」「朝食を毎日食べる」「体育の授業で進んで学習に参加している」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」の割合が低い傾向でした。

全国と比較しても体力は高いですが、運動の楽しさや重要性（食事も含む）は理解しておらず、運動や食生活の習慣化までには至っていないという課題が残りました。

●女子

全国平均と比較し、高い結果となりました。50m走を除く7項目で全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「スクリーンタイム（3時間未満）」「体育の授業は楽しい・やや楽しい」「体育の授業で進んで学習に参加している」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」の割合は高くなっており、「運動が好き・やや好き」「1週間の総運動」「朝食を毎日食べる」の割合が低い傾向でした。

運動の重要性を理解し、体力向上に向けた意識の高さは感じられましたが、昨年度に引き続き「朝食を毎日食べる」の割合は低く、食事と運動（健康）の関連性についての理解や学校外での運動の実行力に課題があります。

＜中学校＞

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの8項目。

●男子

全国平均と比較し、高い結果となりました。上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳びを除く5項目で全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「運動が好き・やや好き」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」の割合が高くなっており、「1週間の総運動」「朝食を毎日食べる」「保健体育の授業で進んで学習に参加している」の割合が低い傾向でした。

運動の重要性を理解し、体力向上に向けた意識の高さは感じられましたが、食事と運動（健康）の関連性についての理解や学校外での積極的な運動の実行力に課題があります。

●女子

全国平均と比較し、非常に高い結果となりました。長座体前屈を除く7項目で全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「運動が好き・やや好き」「スクリーンタイム（3時間未満）」「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」「保健体育の授業で進んで学習に参加している」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」といった多くの項目で割合が高く、「1週間の総運動」の項目のみ低い傾向でした。

学校での運動に関する意識は高いものの、学校外での積極性に課題がある結果となりました。

○食育推進事業の推進

愛南町教育委員会指定「学校を中心とした食育推進事業」の研究指定校である一本松小学校が、「自ら考え、『食べる力』を身に付けようとする児童の育成」というテーマのもと、令和6年12月21日（土）開催の第14回愛南町食育推進大会において、2年間の1年目の中間発表として、その取組についてパネル発表を行いました。各教科等における食に関する指導はもちろんのこと、学校と家庭、地域の連携による取組も充実させています。

- ・ 水産課と連携したぎょしょく教育、農林課と連携した柑橘等の学習、農業支援センターや青果市場、愛南漁協等での産業や特産品についての地域見学を通じて、地域の食への関心や感謝の気持ちを養いました。
- ・ 食育推進改善委員や婦人会、食生活を考える会の方々の協力を得て、愛南町の産業や特産品等について学ぶ機会を多くつくったり、地域の方との郷土料理体験や公民館主催の親子料理体験教室を通して、愛南町の産業や特産物、伝統料理など、多くのことを知る機会を増やしたりしました。
- ・ 家庭で取り組む「チャレンジクッキング」を設定し、お弁当の日や長期休暇を利用した親子での料理体験の場を設け、食への関心と感謝の心を育むよう努めました。

学校保健 体育支援事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	283
施策	01 学校教育の充実	項	07 保健体育費	計画 年度	開始：令和05年度 終了：令和 年度
基本 事業	99 施策の総合推進	目	01 保健体育総務費		

手段 (R06年度の取り組み)

・定期健康診断や学校環境衛生検査等を実施し、安心安全で健康的な環境づくりを行いました。
 ・学校体育会の開催に要する経費を負担しました。
 ・学校体育会の要望する備品等について、予算の範囲内において購入し運営の促進を図りました。
 ・中学校部活動外部指導員を配置し、協力日数に応じて謝礼を支払いました。
 ・学校を中心とした食育推進事業を愛南町食育協働部会と連携して、食育推進事業を実践しました。
 【実績】
 ・委員等報酬 990千円・報償費 1,832千円・旅費 12千円・食糧費 37千円
 ・消耗品費 384千円・印刷製本費 288千円・医薬材料費 89千円
 ・検査手数料 5,674千円・施設使用料 25千円・負担金 1,041千円

特定財源情報

・日本スポーツ振興センター保護者負担金 416千円
 ・ふるさとづくり基金繰入金 5,000千円

活動・ 成果状 況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	学校体育会等開催回数 (回)		6	17	5
	活動	大会等の回数 (回)		7	5	7
	成果	参加人数 (人)		869	970	898
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	762	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	2,047	3,425	5,416	
		オ 一般	8,038	8,407	4,956	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	10,847	11,832	10,372	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 団体競技では上位大会の活躍が難しくなっています。 (原因) 児童生徒の減少で、団体競技の定数確保ができない場合等の事例が出てきています。 (余地) 中学校における合同チームへの指導や外部指導者等を活用する必要があります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	9	安全・安心な学校づくりの推進		

目標

児童生徒の安全を第一とし、児童生徒の命が輝き、安心して学校生活を送ることができる環境づくりや安全教育を推進しよう

○防災教育の推進

愛南町指定「愛南町防災教育研究指定校事業」篠山小・中学校

○青色防犯パトロールや子ども見守り隊の活動の推進

取組の分析

○防災教育の推進

篠山小・中学校が愛南町防災教育研究指定を受け研究を進めてきました。地域の自主防災組織の活動を学ぶことで、地域の協力体制の必要性を理解し、自然と上手に付き合うための文化や知恵を学ぶプログラムを提供している、黒潮町の防災ツーリズムでの学びを通して、避難訓練をはじめ、日ごろから欠かすことのない備品の点検など、常に防災への高い意識を持ちつつ、あらゆる状況を想定した答えのない問題に対して、自ら考え行動する力を高めることができました。

各小中学校では、起震車体験や砂防学習会などを積極的に行うなど、防災・減災への取組を進めてきました。また、学級活動や総合的な学習の時間、休み時間を活用して、様々な被害状況を想定した避難訓練や地域での合同避難訓練、「マイ・タイムラインの作成」、「HUG活動」等、「自助・互助・共助」意識を高め、地域の防災・減災につなげる防災学習に取り組みました。

特色ある活動としては、御荘中学校が『第4回全国「防災小説」オンライン交流会』に参加（4年連続）し、防災小説の発表や意見交換を通して全国各地の中学生との交流を深め、防災意識を高め合いました。

○青色防犯パトロールや子ども見守り隊の活動の推進

2名のスクールガード・リーダーが年3回程度全小中学校を巡回し、学校の防犯体制や交通安全についての指導を行いました。実際に各学校の不審者対応訓練に関わり、愛南警察署と連携して指導に当たっています。また、通学路危険箇所や横断歩道等での見守り活動や通学路の巡視を行っています。その他にも、年間2回開催されている学校警察等連絡協議会での指導助言や不審者情報に対する対応等、多くの場面で協働した活動を行っています。

青色防犯パトロールや子ども見守り隊の活動については、南宇和交通安全協会や地域の方の協力を得て、児童生徒の登下校時の見守り活動をしていただいています。また、児童生徒を犯罪から守るための連絡場所「まもるくんの家」の設置についても、地域の方の協力で、今年度は139件設置することができました。

特記事項(前年度比等)

慶應義塾大学の大木聖子准教授や本町防災対策課、地域の自主防災組織の方の助言や指導のもと、多くの体験を通して課題解決学習を進めることで、児童生徒の防災意識は高まっております。防災教育を続けることで地域を深く知り、それがいつまでも地域を守っていきたいという、郷土を愛することにつながっています。また、中学校の実践のように、愛南町以外の地域の特色を知るとは、更なる防災意識を高めることはもちろん、自分たちの住んでいる地域に誇りを持って、発信していくことにもつながっています。今後も継続した活動が必要不可欠です。

子どもたちの見守り活動や通学路の安全点検は、継続して、交通安全協会や地域の見守り隊及び関係機関と連携して対応を進めています。また、今年度も通学路安全点検を2回実施していますが、学校からの危険箇所や要望事項については、愛南警察や道路管理者の協力のもと、現地調査を実施し修繕や対応に当たっています。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	10	教育環境の整備・充実		

目標
<p>児童生徒や教職員が安心して充実した学校生活が送れるよう教育環境の整備・充実を図る</p>

取組の概要、分析
<p>○教育環境の充実 子どもたちへのより良い教育環境の確保を行うため、支援員を配置するとともに、教育活動の充実のために学校配置の適正化についても保護者・地域のニーズへの対応を行っています。</p> <p>○施設設備の充実 学校施設環境改善交付金を活用し、城辺中学校のトイレ洋式化を実施しました。また、町単独事業にて一本松小学校体育館のトイレ洋式化の改修も行っています。その他、企業版ふるさと納税及び緊急防災・減災事業債を利用し城辺中学校体育館へ空調機の設置を行いました。</p> <p>施設の維持管理及び備品の整備については各学校の要望を基に行いました。</p>

特記事項(前年度比等)

学校施設防災機能強化事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	235
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費	計画 年度	開始：平成28年度 終了：令和 年度
基本 事業	05 安心安全な教育環境の整備	目	02 事務局費		

手段 (R06年度の取り組み)

・災害時の避難所となっている学校施設（体育館）の防災機能強化を図るため、計画的に事業を進めました。
 ・令和2年度から始めた体育館のトイレ洋式化を令和6年度までの5年計画で実施しました。
 【実績】
 ・一本松小学校体育館トイレ洋式化改修工事 935千円

特定財源情報

ふるさとづくり基金繰入金 900千円

活動・ 成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	防災施設整備の件数 (件)		6	8	9
	活動	運用計画書の活用回数 (回)		0	0	0
	成果	防災施設整備率 (%))		60.0	80.0	90.0
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	1,144	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	900	
		オ 一般	0	1,067	35	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	1,144	1,067	935	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 1校の体育館トイレ洋式化を実施しました。 (原因) 和式便器設置台数が多いためと考えられます。 (余地) 体育館トイレの洋式化を進めることにより、更なる防災機能の向上を図ります。引き続き整備を行っていきます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	1	幼稚園の管理・運営		

目標

心身ともにたくましく、豊かな心をもつ子どもを育てる

取組の概要、分析

あいなん幼稚園	人 数
3 歳児	6 名
4 歳児	2 名
5 歳児	3 名

たくましく豊かな人間性の基礎を培うため、様々な遊びや活動を通して多様な体験の実現を目指し、主体性と協調性を育んでいます。そして子どもたちがのびのびと活動できるよう環境を整えることで、様々な経験や体験の積み重ねから、主体的な学びへとつながるようにしています。

また、日々の遊びにおいて、友達との共同性を深め一人ひとりの持ち味が発揮されるように、互いのよさを認め合う場面を増やせるようにしています。教諭は、幼児の姿や実態を把握し、園内での話し合いを重ねることにより、環境構成や援助などを工夫する努力をしました。

全体的には、幼稚園の教育目標に沿った教育を推進し、保護者と連携しながら、多種多様な事業を実施することができました。今後も、家庭との連携を密にし、よりよい支援ができるよう課題を検討し、一人ひとりを大切にしたい教育について、更に取り組んでいきます。

特記事項(前年度比等)

令和6年度の「防災教室」は、引き渡し訓練と野田恵子ヨガインストラクター講師のもと、エコノミークラス症候群の予防や不安を和らげる方法を学び、保護者と一緒に研修を行うことができました。日常から取り入れていき有事の際にスムーズに行えるように努めました。

また、「PTAお楽しみ会」は、中田非斗志先生を講師に迎えて、一本松小学校プールにてカヤック体験を親子で行い、貴重な体験の機会となりました。

あいなん幼稚園管理運営事業

教育委員会部局 あいなん幼稚園

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	249
施策	01 学校教育の充実	項	04 幼稚園費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	01 幼稚園管理費		

手段 (R06年度の取り組み)	
<p>・子ども・子育て支援新制度に基づき、質の高い幼児教育、保育の提供、地域の子ども子育て支援の充実を目的に保育サービスを行いました。</p> <p>・保育では、遊びを中心とした生活を通して幼児が様々な体験を重ね、健やかな成長を促す教育の基礎を培いました。また、一人一人に応じた教育を進め、総合的指導を行いました。</p> <p><保育サービス事業>・通常保育 平日8時30分～14時30分（月曜日～金曜日）給食</p> <p>【実績】・報酬 80千円 ・報償費 22千円 ・旅費 114千円 ・需用費 1556千円</p> <p>・役務費 214千円 ・委託料 561千円 ・使用料及び賃借料 15千円</p> <p>・原材料費 33千円 ・負担金補助及び交付金 64千円</p>	

特定財源情報
子ども・子育て支援事業費 国庫補助金 168千円 / 県補助金 279千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績	
	活動	開園日数 (日)		195	197	198
	活動	利用述べ幼児数 (人)		3,229	2,432	2,178
	成果	あいなん幼稚園の保護者アンケートによる保育サービス満足度 (%))		90	90	90
	成果	あいなん幼稚園 施設管理上の不具合で保育に支障をきたした件数 (件)		0	0	0
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	168	168	168	
		イ 県	168	168	279	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	1,969	3,435	2,212	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	2,305	3,771	2,659	

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 事業の成果としては順調です。 (原因) 保護者と連携し、保護者のニーズに合わせて柔軟に対応することで、信頼関係が深まり園児の成長に安心・安全な場を提供できたと思われます。 (余地) 更にきめ細かい保育サービスを提供することが考えられます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

- 学力調査の結果では、小学校の国語科や算数科が全国平均を大きく下回っているという結果を丁寧に分析し、知識及び技能の定着とその活用を一体的に捉えた学力の育成を図る必要性を明確にしていることを評価する。
- 中学校の調査では、国語科や数学科は全国平均とほぼ同等ということであり、今後も読解力の育成に向けた取組を推進し、言語活動の充実を図る授業改善に取り組んでいく必要性を明確にしていることを評価する。
- 質問調査では、小中共に前向きに取り組んでいる児童生徒が多いことはとても評価できる。また、ICT活用については、様々な面でのよさや課題を丁寧に分析しながら、家庭と連携した取組を推進してもらいたい。
- いじめ問題への対応が組織的計画的に取り組めていることを評価する。減少傾向にあるのは効果が上がっていると思われるが、未然防止対策をさらに充実させて、全町で人権意識を高揚させていくことを期待したい。
- 地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の配置が拡大して、地域力を生かした学校経営が前進している。コミュニティ・スクールが形骸化しないようにして、地域とともにある学校づくりを推進していることを大いに評価したい。
- 体力・運動能力に非常に高い結果を残している。生涯スポーツに向けての取組に向けて継続して取り組んでももらいたい。
- 水産課や農林課と連携した食育推進事業は、愛南町の強みである。キャリア教育の推進にもつながっていることを大いに評価する。
- 防災教育は先進的に取り組まれている。全ての校種において一体的に特色ある防災教育も展開しており、県下のモデルにもなっている。質の高い防災教育が展開されていることを大きく評価したい。
- 「あいなんBOOKピクニック」の取り組みを評価する。本を読むことだけに重点を置くアンケートの取り方ではなく、本に関わる行為（書店へ行く、話題の本の話をするなど）にも焦点を当て、本への興味を持たせてほしい。
- 不登校児童へのきめ細かな対応を評価する。朝、自宅まで迎えに行き児童の気持ちを尊重しながら一緒に登校へと導いている教員の姿を見た。大変な労力を必要とすると思うが工夫しながら引き続き対応してほしい。
- 地域コーディネーターの取り組みを評価する。学校での勉強以外の活動の幅が広がり、子供達にとって学校生活における充実感が高まっているのではないと思う。
- 中学生が夏休み中に参加するボランティア活動事業は、時間のない多忙な生徒でも休みを利用してできるので、とても充実した内容の体験になっていると思う。
- ぎょしょく、柑橘学習など愛南町の魅力を十分に活かした食育ができていることを評価する。
- 防災小説に参加する取り組みを評価する。いざという時の災害について思いを巡らせることでよりリアルなイメージを描くことができるようになる。参加校が増えていくことを期待する。
- 「地域とともにある学校」づくりを継続していることを評価する。

- 今後も、教職員の習熟向上のための研修を充実し、児童生徒一人一人の学力向上に繋げていただきたい。
- いじめ・不登校問題について、今後も関係機関とともに情報を共有し、早期発見、早期解決、未然防止に努めていただきたい。
- 今後も、児童生徒が生涯にわたって健康増進に繋がる体力向上のための運動の必要性和習慣性、そして食の大事さを説いていただきたい。
- コミュニティ・スクールの実質的取組は、地域学校協働活動との一体的推進が前提である。会議体の充実と共に社会教育との連携・協働を同時に推進することを期待する。
- 国語、算数ともに読解力の育成の必要性が明確になった。この結果を踏まえて、学力の向上に取り組んでほしい。
- 特別支援学級及び配慮が必要とされる児童生徒への対応は、とても丁寧できめ細かであることを評価する。しかし、保護者からの要望が増加しているようなら、対応できる支援員の確保を早めに協議しておくことが必要かと思う。
- 朝食が学習における集中力アップに良いことは周知のことだが、朝食を食べる児童の割合が低い理由は就寝が遅いなどの生活スタイルも深く関わっていると思うので、広い視野で引き続き啓発に努めてほしい。
- 小学校の学力調査の結果、国語科、算数科が全国平均を下回ったことは残念だが、今後は児童が楽しいと思える環境になれば上がるのではないかと思う。今後は、学校や家庭が、取り組むことを期待する。
- 学習意欲が向上している児童生徒の割合が、小学校、中学校とも低下している。家庭学習の向上に期待する。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	2	学校給食に関すること		
小項目	1	学校給食の運営・管理		

目標

衛生管理の徹底に努め、安全で栄養バランスの取れた給食を提供し、生涯にわたる心身の健康増進を図るとともに、食育基本法の理念のもと学校が進める食に関する指導の「生きた教材」として、心のふれあいを深め、あたたかい人間関係を育成する。

取組の概要、分析

○衛生管理・食品管理

「学校給食衛生管理基準」の要綱に基づき、給食従事者の健康管理、給食設備並びに食品衛生管理等の定期・臨時及び日常の衛生検査を実施しています。令和6年度は、愛媛県学校給食会が開催する学校給食調理従事職員研修会に全調理員が参加しました。更に栄養教諭と栄養士が全調理員への研修を実施し、衛生管理・食品管理の万全な体制に努めています。

愛南町学校給食異物混入マニュアルに沿って、異物混入の未然防止や混入が発見された場合の対応を行うことで、混入防止と被害拡大防止に努めました。

○食育推進

各学校で授業や給食時間等に栄養教諭による食に関する指導を行いました。そして、地域に根ざした食材を学ぶことを目的として、愛南町で養殖が進められている「ブリ」・「鯛」・「スマ」の給食を提供したり、愛南町の郷土料理である「団子汁」や「大豆うどん」を実施するなど食文化の継承にも努めました。また、学校保健委員会を通して、直接保護者や学校関係者に啓発を行うとともに、「学校栄養士だより」を発行して、広く食育推進を図りました。

愛南町食育推進大会では、「食の大切さを再発見 一汁の魅力と食文化の伝承」と題し、給食センターでの調理の様子や愛媛大学、ヤマキと連携して実施した出汁の授業などについて、地域住民に周知しました。

学校給食センターは「学校給食衛生管理基準」に基づくドライ方式を導入した施設で、徹底した衛生管理による調理作業を実施しています。給食は地元食材をできるだけ活用し、調理方法の工夫に努め、栄養バランスの取れた献立としました。事業評価成果指標の一つである残食割合は、1.01パーセントで、食品ロスの取組と連動して成果を上げています。また、平成26年度からは、兵庫県丹波篠山市と食材の交流事業を継続するなど、食に対する関心や理解を深める事業を通して、食育推進に取り組んでいます。

特記事項(前年度比等)

令和6年度は、愛媛大分交流給食での「別府地獄揚げ(別府市)」「なばっピーあえ(竹田市)」、大人気の児童書「ぐりとぐら」にちなんだメニュー、新紙幣の発行を記念した渋沢栄一ら3人にゆかりのある献立、平城貝塚が「国の史跡」に指定されたことにちなんだ「平城貝塚メニュー」を提供するなどの工夫を行いました。

また、毎月「ととの日」や「地産地消の日」などを設定し、漁協や青果市場等関係機関と連携して愛南町産農水産物の食材利用の促進など積極的な地産地消に努めました。また、給食指導等で地元食材の生産者へのインタビュー動画や掲示物をICTを活用して作成し、児童生徒に周知、理解を深めさせました。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	2	学校給食に関すること		
小項目	2	給食費の適正な徴収		

目標

児童生徒・保護者間で不公平が起こらないよう適正な給食費の徴収に努める。また、新たな滞納者をつくらない仕組みづくりが確立できるよう調査・研究を行う。

取組の概要、分析

○学校給食費

給食費の内容は、学校給食法第11条に保護者負担の経費が明記され、その給食費の保護者負担額は愛南町学校給食センター条例施行規則第2条で定めています。給食費保護者負担額の算定に当たっては児童生徒の栄養を確保し、諸物価の動向、家計への影響等を考慮した額としています。

令和5年10月からは、子育て世代の経済的負担軽減のため、幼稚園、小・中学校の給食費を無償化しています。（令和8年度末まで）

○納付方法の工夫

給食費の納付は、毎月、保護者口座から引き落としで徴収し、保護者の負担軽減と現金取扱い事故が起きないようにしています。

○給食費滞納者への対策

令和7年3月末で5校、滞納者数は13名（全て既卒者及び転出者）であり、滞納額は788,300円となっています。令和6年度中の過年度分の納入額は0円です。

また、現年度の滞納はなく、8年連続で新たな滞納者をつくらないという目標が達成できています。新たな滞納者が出た場合は、これまで以上に学校と連携して、文書、電話、家庭訪問などの督促を続けながら納入を働きかけ、最終手段としては法的措置も視野に入れた対応の検討も必要であると考えます。

令和6年度も前年度に引き続き新規滞納者はなく、新たな滞納者を出さないという目標が達成できています。今後も学校と連携を密にして、引き続き納入交渉を行っていきます。

また、行先不明者や生活保護者、時効ケース等については、引き続き滞納整理を検討していきます。

特記事項(前年度比等)

学校給食センター管理運営事業

教育委員会部局 学校給食センター

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	291
施策	01 学校教育の充実	項	07 保健体育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	04 健やかな体の育成	目	05 学校給食費		

手段 (R06年度の取り組み)

・学校給食センターでは、「学校給食衛生管理基準」に基づくドライ方式を導入し、徹底した衛生管理により給食を提供しています。

・安心・安全な給食提供を最優先課題として、栄養教諭を中心に、地域に密着した食育に取り組んでいます。

・令和6年度は、園児11名、児童生徒1,101名、教職員257名（内、県立南宇和高等学校希望生徒158名、教員1名）及び試食等1名の1,370名に提供しました。

・給食費は幼稚園・小学校が250円、中学校が300円（いずれも教職員同額）、令和5年10月から園児、児童生徒は無償としています。（令和8年度末まで）また、県立南宇和高等学校の給食費は生徒が3千円（月額）、教員が250円としています。

特定財源情報

・南宇和高校学校給食保護者負担金 4,379千円

・給食センター運営費篠山小中学校組合負担金 3,667千円

・学校給食費職員等負担金 10,808千円 ・行政財産使用料 6千円

・ふるさとづくり基金繰入金 75,734千円

活動・成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	給食提供日数（日）		191	199	201
	活動	給食提供人数（人）		224,249	234,329	234,616
	成果	残食割合（食べ残しの割合）（％）		1.09	1.04	1.01
	成果	給食調理上の衛生事故件数（件）		6	8	7
事業費 （千円）	財源内訳	ア 国	0	16,694	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	62,647	67,980	94,594	
		オ 一般	33,594	25,624	18,133	
		カ 事業費（ア～オ合計）	96,241	110,298	112,727	

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	（状況）異物混入は、前年度と比較して、1件減少しており、成果としては横ばい です。 （原因）主な混入物である髪の毛やビニール片など、調理場での目視による発見に 努めています。 （余地）下処理や調理中のチェックにより混入物の取り除きを行っていますが、各 工程での確認作業の徹底等、なお一層の注意喚起を行い、調理中の混入防止に努め ていきます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

- 愛媛大分交流給食での献立メニューなど、ユニークな工夫を行っていて、子供たちが楽しく給食ができるような仕掛け作りを高く評価する。
- 子育て世代の経済的負担軽減のための幼・小・中の給食費無償化は先行投資の意味もあり、物価高騰の中、工夫改善をし続けていることを高く評価する。
- ドライ方式を導入した施設での徹底した衛生管理を評価する。
- 残食の割合の減少は、食品ロスとタイアップして効果を上げていることを大きく評価する。
- 子どもに好きなメニューを聞いたところ魚と答え、それを栄養士さんに聞くと独自に味付けを考えたメニューであったことから、日々児童生徒のために創意工夫して作ってくださっていることが分かる。それが魚だったことも、ぎょしょくの活動の賜物であり評価する。
- 限られた予算の中で、献立に地域の特色ある産物を取り入れたり、また他県の特色を取り入れたり、様々な工夫をし提供していることを大いに評価する。
- 残食割合が低く推移しているが、令和6年度はなお低くなっている。これは、栄養教諭、調理師の方々の日々の努力の結果であり、大いに評価する。
- 給食費無償化への取り組みが行われていることを評価する。

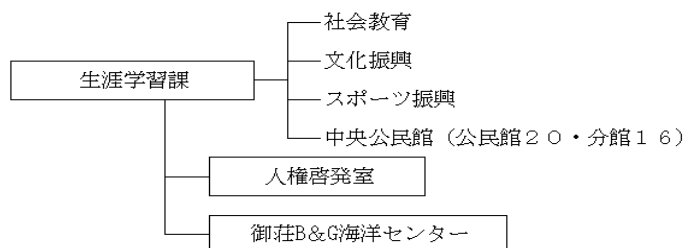
大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	1	学び、伝え、創る生涯学習社会の形成		

目標

- 生涯学習推進体制の整備
- 学習機会の整備、充実
- 社会教育関係団体及び生涯学習指導者の育成と連携促進
- 読書活動の推進及び図書館整備に関する検討

取組の概要、分析

《組織体系》



生涯学習事業については、少子高齢化や価値観の多様化により、町民ニーズが多様化する中、関係団体や公民館等と連携・協力し、住民のニーズを把握しながら、誰もが参加しやすい事業の実施に努めました。引き続き、対象となる年齢層、事業の内容や実施時期、情勢の変化などに配慮しつつ、住民の意向に沿ったきめ細かな事業展開を図っていきます。

なお、各団体の中で、婦人会については会員数が減少傾向にあります。トレッキング・ザ・空海あいなんのお接待のようにボランティアを中心とした活動が地域コミュニティに活力を与えています。今後も会員の自主性を大切にしながら活動を支援していきます。

また、読書活動の推進については、御荘文化センター図書室を中心に図書館司書による図書サービスの充実を図り、重ねて赤ちゃんへの読み聞かせ等、ボランティア団体との協働による事業の推進、機会の提供などに取り組みました。今後とも読書や学習環境の整備を進めながら機運の醸成に努めていきます。

特記事項(前年度比等)

- ・婦人会のボランティア参加会員数（R5/178人→R6/137人）
- ・御荘文化センター自主事業の年間入場者数（R5年度/1,234人→R6年度/2,309人）
- ・御荘文化センター図書室貸出冊数及び人数（R5/冊数5,878冊、人数2,733人→R6/7,098冊、人数3,324人）

女性教育推進事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	01 社会教育総務費		

手段 (R06年度の取り組み)

愛南町連合婦人会が実施する女性教育推進事業に対して補助金を交付し、社会参加を促すための支援を行いました。

【実績】

- ・事業謝礼 12千円
- ・婦人会補助金 1,300千円

特定財源情報

区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
活動・ 成果 状況	活動 研修会の実施回数 (回)	1	1	1
	活動 ボランティアの実施回数 (回)	16	15	13
	成果 研修会参加者数 (人)	15	25	23
	成果 ボランティアへの参加会員数 (人)	175	178	137
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0
		イ 県	0	0
		ウ 地方債	0	0
		エ その他	0	0
		オ 一般	1,320	1,310
	カ 事業費 (ア～オ合計)		1,320	1,310

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) ボランティアへの参加者数は137名と、前年度より41名減少しました。 (原因) 会員の高齢化等により各事業への参加者が減少したものとされます。 (余地) 会員の高齢化等も考慮し、事業実施の可否等を検討します。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

御荘文化センター自主開催事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	281
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	07 御荘文化センター費		

手段 (R06年度の取り組み)

町民が身近に舞台芸術や文化講演・イベント等を楽しむことができるよう、ホールを使用し自主事業を開催しました。

【実績】

- ・事業を4回実施し、2,309名の来場者に公演を行いました。
- ・委託費 15,252千円

特定財源情報

雑入（チケット販売料） 3,165千円

活動・成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	開催件数（回）		4	3	4
	活動					
	成果	御荘文化センター自主開催事業の年間入場者数（人）		1,011	1,234	2,309
	成果					
事業費 （千円）	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	5,693	5,096	3,165	
		オ 一般	4,413	4,330	12,087	
		カ 事業費（ア～オ合計）	10,106	9,426	15,252	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 4事業で5回開催し、2,309人の入場者がありました。 (原因) 1事業を昼夜2部公演で実施したことが要因です。 (余地) 引き続き、積極的な事業周知を行い、入場者数の増加を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

御荘文化センター図書室運営事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	281
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	07 御荘文化センター費		

手段 (R06年度の取り組み)

多くの町民に図書室を利用してもらうため、図書の貸出・購入を行いました。

【実績】
・講師謝礼 60千円
・消耗品費 954千円 他

特定財源情報

区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
活動・成果状況	活動 図書購入数 (冊)	467	531	526
	活動			
	成果 御荘文化センター図書室貸出冊数 (冊)	5,177	5,878	7,098
	成果 御荘文化センター図書室貸出人数 (人)	2,349	2,733	3,324
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0
		イ 県	0	0
		ウ 地方債	0	0
		エ その他	0	0
		オ 一般	845	973
		カ 事業費 (ア～オ合計)	845	973

成果実績評価	<p>成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化</p> <p>成果向上余地 大 中 小 なし</p>	<p>(状況) 延べ貸出冊数は20.8ポイント増、延べ貸出人数は21.6ポイント増でした。</p> <p>(原因) テーマに沿った図書の展示を行い、読書に関心を持ってもらう環境づくりに努めたことが、貸出人数の増加につながったものと考えられます。</p> <p>(余地) 新刊図書の紹介や図書に関する展示を工夫するなど、さらに読書に関心を持ってもらうことによって、読書人口を増やす余地があるものと思われる。</p>
--------	--	--

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	2	あらゆる差別や偏見を解消する人権・同和教育の推進と「共生」社会の確立		

目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●人権・同和教育推進体制の確立 ●人権・同和教育指導者の育成と資質の向上 ●人権・同和教育の実践化 	

取組の概要、分析
<p>○ 人権・同和教育の推進 地域と密着している学校や公民館へ人権・同和教育研修会等のための教材等を提供することで、地域社会が効果的に人権・同和教育を推進できるように連携を図りました。 校区別懇談会を開催して、学校及び地域住民が人権について学ぶことができるように努めました。 教職員、行政職員、一般を対象に指導者養成講座を実施して、人権に対する知識と理解を深めるように努めました。</p> <p>○ 人権意識の向上 町外で開催される研修会に対して、参加希望者を各種研修会に派遣し、人権意識の向上を図りました。 人権問題に興味を持ってもらうために、身近な問題をテーマにして、多くの人に学習機会を提供できるように努めました。 同和問題を人権問題の重要な柱として捉え、全ての人権が尊重される社会づくりのために、各種研修会の開催について広く周知をしました。</p> <p>○ 地域に根差した啓発 地域の課題を踏まえながら、各種学級、講座等を通して、課題の解決に向けた学習内容の充実に努め、様々な人権についての知識、理解を深めることにより、問題の解決に向けた学習活動を実施しました。 地域の身近な部分に目を向け、地域に根差した啓発資料として作成した人権作品集「えがお」は、公民館における啓発活動の資料等として活用されています。</p>

特記事項(前年度比等)

取組の詳細

人権啓発事業

事業名	実施日 実施期間	会場	参加人数	内容	備考
校区別人権・同和教育懇談会	R6. 6月～12月	小中学校	1,727名	人権集会、講演会、公開授業等	
公民館別人権・同和教育研修会	R6. 4月～3月	公民館	169名	人権啓発教材視聴、朗読会、学習会	
人権・同和教育指導者養成講座	R6. 7月～9月	本庁	230名	講演会	
町職員・教職員・議員等人権・同和教育研修会	R6. 6. 19～20	御荘文化センター	699名	口演会	
四国地区人権教育研究大会	R6. 7. 4～5	高知県高知市	13名	実践報告、研究協議、情報交換	
南予地区人権・同和教育研究協議会	R6. 10. 29	宇和島市	46名	実践報告、研究協議、情報交換	
愛媛県人権・同和教育研究大会	R6. 11. 12	県民文化会館ほか	19名	実践報告、研究協議、情報交換	
全国人権・同和教育研究大会	R6. 11. 30～12. 1	熊本県熊本市	11名	実践報告、研究協議、情報交換	
人権ふぉーらむ	R7. 1. 25	御荘文化センター	163名	シンポジウム	
人権を考える町民の集い	R6. 9. 22	御荘文化センター	66名	人権コンサート	
つくし会	毎月 第3金曜日	大森文化会館、本庁	227名	学習会（一般）	
解放未来塾	不定期	大森文化会館	29名	学習会（児童、生徒）	
人権啓発作品集作成	R7. 2月	—	—	「えがお」2,000冊配布	
人権啓発ビデオライブラリー整備	通年	—	—	人権啓発DVD教材6本購入	

人権教育協議会補助事業

教育委員会部局 人権啓発室

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	04 人権尊重 男女共同参画の実現	項	06 社会教育費		
基本事業	01 人権 同和教育の推進	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
あらゆる差別や偏見を解消する人権・同和教育の推進と「共生」社会の確立を目的とする愛南町人権教育協議会に補助金を交付しました。 【実績】 ○愛南町人権教育協議会の主な事業 ・総会【6/24(月)参加者186名】 ・主催「人権を考える町民の集い」【9/22(日)参加者66名】 ・後援「みつめてみよう人権コンサート」【1/12(日)参加者100名】

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助金額 (千円)	650	1,400	2,000
	活動				
	成果	愛南町人権教育協議会が主催及び後援した行事への参加者数 (人)	241	373	352
	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	650	1,400	2,000
		カ 事業費 (ア～オ合計)	650	1,400	2,000

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 成果指標Cの参加者数は、前年度比で21人減少しており、目標成果指標に到達できませんでした。 (原因) 人権教育に普段あまり関心がない層を含め、より多くの町民に対し、周知できなかったためと考えられます。 (余地) 事業の内容充実や参加しやすいように周知していけば、参加者の増加が見込めます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

県人権対策協議会愛南支部補助事業

教育委員会部局 人権啓発室

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	03 民生費	決算書 ページ	131
施策	04 人権尊重・男女共同参画の実現	項	01 社会福祉費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 人権・同和教育の推進	目	08 人権・同和対策費		

手段（R06年度の取り組み）

同和問題をはじめとする、あらゆる人権課題解決のため、愛媛県人権対策協議会愛南支部の活動を支援しました。

- ・愛媛県人権対策協議会愛南支部事業の開催（総会等）
- ・愛媛県人権対策協議会事業への参加（講演会、研修会、研究大会等）

【実績】
愛南支部総会、役員会・部会、全国女性集会、人権啓発土曜講座、南予地域啓発講演会、南予ブロック研修会、女性対策部一泊研修会等

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助金額 (円)		450,000	1,190,000	1,190,000
	活動					
	成果	県人権対策協議会愛南支部各種行事及び大会等への参加者数 (人)		24	44	55
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	450	1,190	1,190	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	450	1,190	1,190	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	（状況）参加者は前年度比で11人増加しています。 （原因）役員会や研修会の開催数が増えたためです。 （余地）開催場所の変更等、事業の実施方法を会員の参加が容易となる形態とすることで参加者の増加が見込めます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	3	地域ぐるみで取り組む青少年の健全育成		

目標

- 家庭及び地域社会の教育力の向上
- 学校・家庭・地域の連携協力事業
- 放課後・休日児童の安全な居場所づくりの推進

取組の概要、分析

P T Aについては、児童生徒の健全育成や家庭教育力の向上、教育環境の充実を目的に、愛媛県PTA連合会の事業協力のもと、学びの場としての座学をセットにした体験学習「宇宙に飛び出せ！夢の卵！熱気球からつながる未来」という親子で熱気球に乗るという事業を実施した。また、会員相互の交流や及び研さんを図る事業として「できることから始めよう！～普段の備えが非常時の備え～」という災害における食をテーマに会員学習会を実施し、更に子育てに関連する事業として、町P T A研究大会において「正しい前向きな考え方で未来を大きく羽ばたけ」と題して講演会を実施しました。

その他、放課後や長期休暇中の子どもたちの安全、安心な居場所づくりとして御荘夢創造館を活用し「夏休み子ども教室」を、町公共施設を活用し「放課後子ども塾」を実施しました。

なお、今後ともP T Aを通じた保護者同士の交流や子育てに関連する学習機会の提供、家庭教育の支援においては、家庭における教育力の向上を図るために子育て中の保護者を支援するなど青少年の健全育成に関する各種取り組みを継続していきます。

特記事項(前年度比等)

- ・PTA連合会の理事会参加率（R5/68%→R6/77%）
- ・放課後子ども教室の利用者数（R5/112名→R6/98名）
- ・愛南子どもセンターの利用者数（R5/288名→R6/268名）

PTA連合会活動支援事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
愛南町PTA連合会が実施する児童生徒の健全育成のための活動に対して補助金を交付しました。 【実績】 ・PTA連合会補助金 1,100千円

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助金額 (円)	430,000	800,000	1,100,000
	活動	研修会の実施回数 (回)	3	3	4
	成果	PTA連合会理事会の参加率 (%)	81	73	82
	成果	PTA連合会主催研修の研修参加率 (%)	87	68	76
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	430	800	1,100
	カ 事業費 (ア～オ合計)		430	800	1,100

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 理事会の参加率は82%で前年に比べ増加しました。研修は4回行い、参加率は76%と前年に比べ増加しました。 (原因) 理事の就労状況等が変化したことによるものです。 (余地) 年度当初に理事会の開催日をお知らせし、早めの日程調整を行っていただくことで参加率が上がると思われますが、夜間勤務の理事への参加強制は難しいと考えます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

成人式開催事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
当該年度に20歳の誕生日を迎える対象者の新たな門出を祝うため、成人式の企画運営を行いました。 【実績】 ・日 時 令和7年1月3日 13：30～ ・開催場所 御荘文化センター ・参加者数 147人 ・事業謝礼 180千円 ・記念品 1,612千円 他

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	式典への参加者数 (人)	141	158	147
	活動				
	成果	式典の参加率 (該当者に対する参加者の割合) (%)	73	78	85
	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	1,588	2,003	2,031
	カ 事業費 (ア～オ合計)		1,588	2,003	2,031

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 式典の参加者は147名、参加率は85%で前年と比べ7ポイント上昇しました。 (原因) 開催日が土日も絡んだ連休であったため、多くの新成人が参加しやすいかったものと思われます。 (余地) 式典内容を工夫し、さらに対象者に関心を持ってもらうことによって、参加者数を増やす余地があるものと思われます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

放課後子ども教室事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成23年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
放課後や長期休暇中の児童の安全安心な居場所作りのため、子ども教室事業を実施しました。
【実績】 ・夏休み子ども教室(7/22～8/28) 利用児童24人 指導員謝礼 922千円 ・放課後子ども塾 (4ヵ所) 利用児童74人 指導員謝礼 1,820千円 ・需用費 46千円 他

特定財源情報
・地域家庭教育・子育て支援事業費補助金 1,644千円 ・保護者負担金 240千円

活動・成果 状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	開所日数 (日)	707	740	686
	活動				
	成果	放課後子ども教室待機児童数 (人)	0	0	0
	成果	放課後子ども教室利用児童数 (人)	109	112	98
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	1,461	1,356	1,644
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	226	292	240
		オ 一般	1,173	1,168	974
	カ 事業費 (ア～オ合計)		2,860	2,816	2,858

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 令和6年度の放課後子ども教室利用児童数は98名と、前年度より14名減少しています。 (原因) 利用児童数の減少は、久良小学校の閉校に伴う、久良子ども塾の廃止によるものです。 (余地) 柏子ども塾・緑子ども塾・長月子ども塾・家串子ども塾については、随時入会を受け付けるとともに新規の子ども塾を開設することで成果の向上が見込めます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

子どもセンター運営事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成18年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
子どもに安全な遊び場を提供することを目的とし、愛南子どもセンターの運営を行いました。 【実績】 ・年間95日開館し、268名の子どもに居場所を提供しました。 ・報償費 648千円 ・需用費 68千円

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	開所日 (日)	93	100	95
	活動				
	成果	子どもセンター年間利用者数 (人)	137	288	268
	成果	子どもセンター運営 維持管理上の事故・トラブル件数 (件)	0	0	0
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	633	692	716
		カ 事業費 (ア～オ合計)	633	692	716

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 年間利用者数は268名と前年度に比べ20名(6.9%)減少しました。 (原因) 周知不足による利用者の偏り・減少が原因だと考えられます。 (余地) 子どもの数は今後も減少することが予想されますが、令和6年度の訪問者数を下回らないように、各小中学校・保護者に周知していくよう努めていきます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	4	地域に根ざした公民館活動の充実		

目標

- 地域課題に直結する実効性のある公民館活動の推進
- 公民館事業の点検評価
- 公民館相互の交流と関係職員の資質の向上
- 公民館関係団体の育成及び関連機関の連携強化
- 地域づくりに寄与する人材の発掘・育成

取組の概要、取組の分析

近年の公民館については、単に事業を実施するだけでなく、「社会教育の中核施設」「地域コミュニティの拠点」であることを十分に認識し、地域を構成する様々な住民への積極的、継続的な関わりを持つことで多くの課題への取り組みが期待されています。

そのような情勢のなか、生涯学習の推進における専門的・実践的な知識向上のため、館長（館主）、主事が各種研修に参加し、他市町の公民館活動や地域づくりを学びました。中央公民館主催の研修事業として、公民館活動の充実を図ることを目的とした「公民館研究集会」を、先進的な事業展開を行っている西予市地域づくり活動センター職員を招き開催しました。

さらに、社会教育基本方針に掲げている「公民館事業の点検評価」の推進のため、令和3年度から公民館独自のマネジメントシートを作成し、全公民館でPDCAサイクルを活用した事業展開に着手しています。運営審議会委員や館長（館主）の意見を集約し、事業の課題を明確にして改善案を提示することで、各公民館の地域事情に沿った事業の計画・立案を行っています。

今後も、研修会や研究大会へ積極的に参加することにより、地区公民館相互の交流と関係職員の資質の向上を図りながら、地域に根ざした公民館活動を充実させるための取り組みや地域社会の変化が求める現代的課題の解決を踏まえた公民館活動を継続していきます。

特記事項(前年度比等)

- ・ 公民館年間利用者人数
R5年度 51,034人（内訳：公民館事業16,614人、その他34,420人）
R6年度 55,708人（内訳：公民館事業16,391人、その他39,317人）

取組の詳細

公民館事業

事業項目	事業数	回数	内容
家庭教育支援事業	15	22	・親子料理教室 ・お菓子作り教室 ・押し花教室
ボランティア活動関係事業	26	69	・花いっぱい運動（花壇花植え） ・清掃活動（クリーン運動） ・環境美化活動
体験活動事業	44	194	・ドローン体験教室 ・パソコン教室 ・ハンドメイド教室 ・こども生花教室 ・しめ縄づくり教室
学校・家庭連携事業	13	14	・合同運動会 ・人権同和教育研修会
体育・レクリエーション関係事業	57	329	・健康体操教室 ・ボルダリング教室 ・グラウンドゴルフ交流会 ・ヨガ教室
福祉関係事業	6	14	・消火、避難訓練、救命基礎講習 ・健康づくり教室
施設開放事業	13	25	・学習成果発表会 ・なつかしの成人式写真展 ・絵手紙、書道展示
その他	99	332	・英会話教室 ・スマホ講座 ・お灸教室 ・生花教室 ・フラワーアレンジメント教室

わが里づくり事業補助金事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)

町民の地域づくりの気運を醸成するとともに、地域の特性を活かした個性豊かな魅力ある地域づくりを支援するため、地域の活性化に貢献すると認められる事業に補助金を交付しました。

【実績】

- ・補助金額 954千円

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助金支給額 (円)		1,153,200	1,283,600	954,100
	活動					
	成果	補助金支給団体数 (団体)		7	9	10
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	1,153	1,284	954	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	1,153	1,284	954	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 補助金支給団体数が前年度と比べ1件増加しました。 (原因) コロナ禍以降、各種団体等の活動が活発化しているものと思われます。 (余地) 各団体が活用しやすいような申請方法等を検討し事業周知をすることで、補助件数の増加を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	5	地域文化振興と文化財の整備保存		

目標

- 地域文化の保存と振興
- 指定文化財の保護・整備・啓発
- 埋蔵文化財の調査研究・保存活用
- 平城貝塚の国史跡指定へ向けた取組の推進
- 遍路道柏坂の国史跡指定に係る調査

取組の概要、分析

地域文化の振興においては、文化財保護活用に係る啓発事業（学習会や講座等を8回開催）、文化協会が主催する愛南町文化祭等の各事業を実施しました。令和6年度は、文化祭等を愛南町合併20周年記念事業として内容を拡充して実施したことにより、参加者数は増加傾向にあります。今後も町民にとって魅力ある事業運営を模索していく必要があります。

また、地域の伝統芸能については、毎年開催に合わせて写真や動画撮影での簡易的な記録保存を実施していますが、中にはコロナ禍の影響を受けて簡略化や縮小等の変化が生じているものもあります。そういった地域文化の現状を保存し、次世代に継承していくためには、記録映像の作成、活用等をさらに計画的に実施していく必要があります。

文化財の整備保存においては、これまでの調査研究の成果により、平城貝塚が令和6年10月に国指定史跡となりました。また、今後は既に測量調査等が完了している遍路道（柏坂）についても、国史跡への指定を目指して調査研究を進めていく必要があります。

なお、町指定天然記念物である樹木3件について、樹状の健全な維持を図るため、寄生樹木の除去や樹勢調査等の現状変更を実施しました。この内、御荘平城の金光寺に所在する「老大本柏槇」については、作業主体である文化財所有者に補助金を交付しました。

特記事項(前年度比等)

- ・文化財保護活用に係る啓発事業（講座・学習会）の参加者人数（R5年度/185人→R6年度/210人）
- ・文化祭参加団体数…R5年度/展示・研究部門30団体、発表部門28団体
R6年度/展示・研究部門29団体、発表部門29団体
- ・愛南町指定文化財数（R5年度/94件→R6年度/94件）
※平城貝塚は県指定→国指定へ変更

文化協会活動支援事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	01 社会教育総務費		

手段 (R06年度の取り組み)

愛南町文化協会へ補助金を交付し、愛南町文化祭の開催にかかる支援等地域文化の普及や文化活動の支援を図りました。

【実績】

・愛南町文化協会補助金 2,200千円

特定財源情報

区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
活動・ 成果 状況	活動 三役会 評議委員会等の開催数 (回)	5	8	14
	活動 補助金額 (千円)	550	1,400	2,200
	成果 文化協会加盟団体 会員数 (人)	714	687	703
	成果 文化協会が実施する事業の参加者数及び入場者数 (人)	1,098	1,266	2,037
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0
		イ 県	0	0
		ウ 地方債	0	0
		エ その他	0	0
		オ 一般	550	1,400
	カ 事業費 (ア～オ合計)		550	1,400

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況)文化協会実施事業の参加及び入場者数は、前年度比771名増となり、60.9%上昇しています。文化協会加盟団体の会員数(純人数)は、16名増で、2.3%上昇となっています。
	成果向上余地 大 中 小 なし	(原因)令和6年度は愛南町合併及び愛南町文化協会創設から20周年に当たることから、文化祭において20周年記念行事等を実施したため、例年以上に参加者が増加した上に、文化協会の知名度向上にもつながったものと考えられます。 (余地)会員の高齢化等の課題はありますが、今後も事業運営を円滑化し、魅力的なイベント運営等を行っていくことが、文化協会の継続的な活動につながっていくものと考えられます。

文化財保護啓発事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	279
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	04 文化財の保護・活用	目	04 文化財保護費		

手段 (R06年度の取り組み)

町内に所在する文化財への理解を深めることを目的に、講座や体験事業を開催しました。また、平城公民館平城貝塚展示室の見学者に対し、要望に応じて解説等を行ったほか、町内の教職員及び児童生徒に対しても郷土学習の機会を提供しました。

【実績】

- ・親子伝統芸能鑑賞事業 報償費 110千円
- ・平城貝塚啓発事業（2回） 報償費他 379千円（平城貝塚パンフレット増刷含む）
- ・生涯学習講座事業（4回） 報償費他 18千円
- ・高校生まちづくりワークショップ事業 97千円

特定財源情報

雑入（『愛南町史』売上金） 10千円

活動・ 成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	講座 学習会の開催数 (回)		6	8	8
	活動	CATVにおける文化財等の放映数 (回)		5	3	6
	成果	講座 学習会の参加者数 (人)		274	185	210
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	1,055	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	10	10	
		オ 一般	1,079	1,107	594	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	2,134	1,117	604	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	（状況）文化財保護及び啓発にかかる講座や学習会の参加者数は25名増加し、前年度から13.5ポイント上昇しています。 （原因）講座形式の事業実施数を増やしたことに加え、その場に訪れなければ参加できない体験型イベントの実施を継続して行ったことで、参加者数が増加したものと考えられます。 （余地）今後も、講座形式の事業だけでなく体験型事業の実施を継続し、参加者にとってより魅力的な事業を企画することで、参加者数の増加を見込むことができると考えられます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	6	健康な町民育成のためのスポーツ振興		

目標

- 各種大会の開催及び各種スポーツの普及
- 町スポーツ協会及び町スポーツ少年団加盟団体等への支援
- スポーツ推進委員の研修及び指導
- スポーツ施設環境の整備
- 地域密着型プロスポーツによる地域活性化
- スポーツ合宿の誘致と交流推進

取組の概要、分析

スポーツ振興においては、スポーツ少年団やスポーツ協会共催による各種大会を開催し、競技力、体力向上の推進を図りました。また、各種スポーツ団体への活動支援や全国大会出場における助成金の交付により、スポーツ活動の推進、指導者の育成を図りました。あけぼのグラウンド人工芝張替えや内海グラウンドの付帯設備改修工事を行い、スポーツ施設の環境整備、適切な維持管理に努めました。

また、愛媛マンダリンパイレーツの町内でのホームゲーム開催や愛媛FC、愛媛オレンジバイキングスのマッチタウングームによる、プロスポーツを通じた地域活性化の推進や、トライアスロン大会、スポーツ合宿誘致を実施し、スポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大を図りました。

御荘B&G海洋センターでは、町民が安心・安全に施設を利用できるよう施設の維持管理に努めるとともに、地域住民のスポーツの推進と健康づくりの一環として、B&G会長賞（水泳・ソフトバレーボール・ラケットテニス）、健康づくり教室（エアロビクス・キッズダンス）、水泳教室、海洋クラブ事業を計画通り実施しました。

また、夏場の熱中症対策のため、トレーニングルームにスポットクーラーを設置すると共に、玄関横手摺り取付工事、屋外照明取替工事など施設を安全かつ快適に利用できるよう、適正管理に努めました。

特記事項(前年度比等)

- ・町主催のスポーツ大会・教室等に参加した延べ人数（R5年度/1,368人→R6年度/1,513人）
- ・スポーツ施設利用者数（R5年度/108,215人→R6年度/105,531人）
- ・スポーツツーリズムによる交流人口（R5年度/3,951人→R6年度/4,142人）
- ・スポーツ合宿件数（R5年度/13件→R6年度/18件）

取組の詳細

スポーツ振興事業

年月日	事業名	対象	会場	備考
R6. 5. 3～5	愛南サッカーフェスティバル (ユースの部)	高校生	あけぼのグラウンド他	14チーム
R6. 5. 4	第46回一本松少年剣道大会	小・中学生	一本松交流促進センター ほか	95チーム 480名
R6. 5. 13	第27回きなはいや杯クロッケー交流大会	一般	南レク御荘多目的広場	26チーム
R6. 5. 12	第20回伊予・土佐親善相撲愛南大会	小・中学生	緑公民館常設相撲場	37チーム 111名
R6. 6. 1	第11回愛南町いやしの郷 トライアスロン大会	一般	西海地域	305人
R6. 8. 3	愛媛FCマッチタウン (愛媛FC VS 徳島ヴォルティス)	公式戦	ニンジニアスタジアム	9039人
R6. 10. 20	第20回愛南町スポーツ少年大会 ミニバスケットボール競技	小学生	城辺小体育館	6チーム
R6. 7. 20～21	愛南サッカーフェスティバル (小学3年生以上の部)	小学生	南レク城辺芝球技場ほか	25チーム
R6. 5. 19	四国アイランドリーグplus (愛媛MP VS 高知FD)	公式戦	南レク城辺	208名
R6. 8. 3～4	愛南サッカーフェスティバル (中学生の部)	中学生	あけぼのグラウンドほか	9チーム
R6. 8. 18	第20回愛南町スポーツ少年大会 相撲競技	小学生	御荘B&G相撲場	3チーム 11名
R6. 10. 13	第19回スポーツフェスタIN愛南 バレーボールほか 7競技10種目	一般	南レク第3号城辺公園	385名
R6. 10. 13	愛南サッカーフェスティバル (小学2年生以下の部)	小学生	あけぼのグラウンド	5チーム
R6. 12. 22	第3回南宇和剣道大会	小・中学生	一本松交流促進センター	231名
R6. 10. 26	第20回愛南町スポーツ少年大会 ソフトボール競技	小学生	内海運動公園	2チーム
R6. 9. 21	あけぼのバレーボール大会	小学生	一本松交流促進センター ほか	13チーム
R6. 1. 25	第20回愛南町スポーツ少年大会 サッカー競技	小学生	あけぼのグラウンド	13チーム
R7. 2. 2	第18回愛南町ふれあい健康マラソン大会	小・中・高・一般	一本松交流促進センター 周辺	295名
R7. 2. 22	第20回愛南町スポーツ少年大会 剣道競技	小学生	一本松交流促進	3チーム 9名
R7. 3. 9	第54回南宇和郡サッカー選手権大会	一般	南レク城辺芝球技場ほか	11チーム
R7. 3. 12	愛南町スポーツ協会表彰 表彰式	学生他	伝達表彰	個人37名 2団体
R7. 3. 8	第17回愛南町スポーツ少年大会 バレーボール競技	小学生	一本松交流促進	8チーム

取組の詳細

B & G海洋センター事業

B & G会長賞(各種大会)

年月日	事業名	対象	会場	備考
R6. 6. 16	第30回ミニバレーボール大会 (ミックスの部)	一般	B & G 体育館	7 チーム
R6. 7. 13	御荘 B & G 海洋センター水泳 記録会	町内小学生 外	B & G プール	6 チーム
R7. 2. 2	第30回ミニバレーボール大会 (女子の部)	一般	B & G 体育館	7 チーム
R7. 2. 16	第19回ラケットテニス大会	一般	B & G 体育館	20チーム

B & G自主事業

年月日	事業名	対象	会場	備考
通年 (水・金)	健康体操教室	一般	B & G (プール外)	1, 848名
通年 (月～土)	水泳教室	幼児・小・中・ 高・一般	B & G プール	7, 440名
通年 (水・木)	エアロビクス・キッズダンス 教室	幼児・小・中・ 高・一般	B & G (トレーニングルーム)	1, 441名
通年 毎月 4 回程度	海洋クラブ	小・中・高・一 般	御荘湾周辺外	1, 562名
R6. 6. 26～7. 11	水辺の安全教室 (着衣泳)	小学生	各小学校 (プール)	町内 9 校
R6. 9. 12～12. 19	第36期オタッシャ教室 (転倒予防教室)	一般	B & G 外	93名 (15回)

B & G財団・四国ブロック・愛媛県連絡協議会事業

年月日	事業名	対象	会場	備考
R6. 5. 25～26	B & G マリンリーダー研修会	県内 B & G	今治市大三島	1 名
R6. 7. 25～26	四国ブロック自然体験交流会	四国内 B & G	松山市中島	6 名
R6. 8. 1～31	愛媛県 B & G スポーツ大会 (水泳の部)	県内 B & G	各 B & G (プール)	56名
R6. 8. 11	愛媛県 B & G スポーツ大会 (水上の部)	県内 B & G	今治市吉海	10名
R6. 8. 17～18	B & G 海洋クラブ員前期交流会	県内 B & G	鬼北町広見	7 名
R6. 10. 27～28	中四国ブロック B & G 指導者交歓交 流研修会	四国内 B & G 指 導者	西条市	1 名
R6. 12. 27	B & G 海洋クラブ員後期交流会	県内 B & G	久万高原町	25名
R7. 1. 25～26	B & G アクアリーダー研修会	県内 B & G	愛南町	4 名

スポーツ少年団事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費		

手段 (R06年度の取り組み)

団員の競技力、体力向上を推進するため町スポーツ少年大会を開催しました。
また、団員の競技力、体力向上並びに健全育成を推進するため各スポーツ少年団単位団に
対して補助金を交付しました。

【実績】

・スポーツ少年団補助金 1,314千円（15団体）

特定財源情報

ふるさとづくり基金繰入金 1,300千円

活動・成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	スポーツ少年大会の開催回数 (回)		5	6	7
	活動	スポーツ少年団への加入数 (人)		263	263	279
	成果	スポーツ少年団への加入率 (%)		38.4	41.4	45.7
	成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	1,500	1,400	1,300	
		オ 一般	44	385	709	
		カ 事業費 (ア～オ合計)	1,544	1,785	2,009	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) スポーツ少年団の加入率は前年度に比べ4.3ポイント上昇しました。 (原因) 補助金を交付する等の活動支援を行ったためです。 (余地) 未加入の児童向けに、活動中のスポーツ少年団を紹介することにより、加入率の向上を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

スポーツ協会補助事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費	計画 年度	開始：平成17年度 終了：令和 年度
基本 事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費		

手段 (R06年度の取り組み)

スポーツ協会の活動支援のために補助金を交付しました。
スポーツ協会やその加盟団体の活動に対し事務局として各種大会運営補助などの支援を行いました。
【実績】
・スポーツ協会補助金 2,400千円

特定財源情報

区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
活動・ 成果 状況	活動 補助団体数 (件)	15	15	15
	活動 補助金額 (円)	2,400,000	2,400,000	2,400,000
	成果 スポーツ協会主催大会数 (回)	2	2	2
	成果 スポーツ協会主催大会参加者数 (人)	546	418	680
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0
		イ 県	0	0
		ウ 地方債	0	0
		エ その他	0	0
		オ 一般	2,400	2,400
	カ 事業費 (ア～オ合計)		2,400	2,400

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 大会開催数は前年度と同じ2回でしたが、参加者数は延べ680人と62.7ポイント上昇しました。 (原因) 天気に恵まれ、屋内・屋外競技とも予定通り大会が開催できたためと考えます。 (余地) 引き続き加盟種目団体と連携し事業の充実を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

スポーツ大会助成金事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：令和05年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
各種スポーツ団体が主催する対象事業に対して補助金を交付しました。
【実績】
・愛南サッカーフェスティバル 1,200千円
・あけぼのバレーボール大会 150千円
・愛南杯テニス大会 150千円
・南宇和剣道大会 200千円
・一本松剣道大会 200千円

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助金額 (千円)		1,900	1,900
	活動				
	成果	各種大会参加者数 (人)		2,240	2,580
	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	0	2,100	1,900
		カ 事業費 (ア～オ合計)	0	2,100	1,900

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 町内5つの大会に助成金を交付し、参加者は合計2,580人となりました。 (原因) 交付先は減少したものの、他の大会で参加者が増加したため、実績増となっています。 (余地) 参加チーム数等から考えて、現状が適正であると考えため成果向上の余地は小さいと考えます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

スポーツ競技大会出場助成事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
スポーツ競技力向上推進を図るため、全国大会以上の競技会に出場する選手、監督又はコーチに対し、スポーツ競技大会出場助成金を交付しました。 【実績】 ・大会出場懸垂幕 440千円（10本） ・スポーツ競技大会出場助成金 750千円（13大会 25名）

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	全国大会等選手派遣助成金 交付申請数 (個人・団体) (件)	26	26	25
	活動	助成金額 (円)	735,000	590,000	750,000
	成果	全国大会等選手派遣助成金 交付決定数 (個人・団体) (件)	26	25	25
	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	1,052	1,031	1,190
		カ 事業費 (ア～オ合計)	1,052	1,031	1,190

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 助成金交付決定数は、前年度25件に対し令和6年度は25件と同じで、当初目標の10件を達成しています。 (原因) ソフトテニスや相撲競技など一部競技で全国レベルの選手育成が進んでいることが原因として考えられます。 (余地) 各種競技団体と連携し助成対象者の把握に努めます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

中学校社会体育等活動事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	02 各種スポーツ活動への参加機会の充実	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
各中学校生徒の積極的な社会体育活動等への取組を促進するため、活動に要する経費を補助しました。
【実績】 ・社会体育及び文化活動事業費補助金 2,038千円 4団体

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	補助件数 (件)	5	5	4
	活動	補助金額 (円)	2,306,000	2,151,000	2,038,000
	成果	中学生の社会体育活動等参加者数 (人)	1,444	1,689	1,506
	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	2,306	2,151	2,038
		カ 事業費 (ア～オ合計)	2,306	2,151	2,038

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 中学生の社会体育活動(文化部含む)参加者数が前年に比べ10.8%低下しました。 (原因) 前年度と比較して、生徒数の減少及び一大会当たりの参加者数が減少したことによります。 (余地) すでに生徒のほとんどが部活動に所属しており、大会の数も限られるため参加者数増加の余地はほとんど無いと思われます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

B & G財団関連事業

教育委員会部局 御荘B&G海洋センター

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	289
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度
基本 事業	02 各種スポーツ活動への参加機会の充実	目	04 御荘海洋センター費		

手段 (R06年度の取り組み)

B&G財団が推進する各種事業を実践するとともに、地域海洋センターの連携を強化するため、各種会議・研修会に参加しました。

- ・愛媛県B&G連絡協議会主催事業
- ・B&G四国ブロック連絡協議会主催事業
- ・B&G財団事業
- ・B&G全国サミット
- ・B&G全国教育長会議
- ・水辺の安全教室
- ・転倒・寝たきり予防事業（オタッシャ教室）

【実施事業】愛媛県B&G連絡協議会主催事業 外14件 192名

特定財源情報

活動・成果状況	区分	指標名称		R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	参加事業数（事業）		14	21	15
	活動					
	成果	参加延べ人数（人）		183	408	192
	成果					
事業費 （千円）	財源内訳	ア 国	0	0	0	
		イ 県	0	0	0	
		ウ 地方債	0	0	0	
		エ その他	0	0	0	
		オ 一般	298	1,059	510	
		カ 事業費（ア～オ合計）	298	1,059	510	

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	（状況）昨年度実績と比較して参加事業数並びに参加延べ人数（216人）が減少しました。参加延べ人数については、当初の目標を達成し、72人増となりました。
	成果向上余地 大 中 小 なし	（原因）昨年度は、愛媛県B&G連絡協議会の事務局が終了したため、会議への出席回数が減りました。また、転倒・寝たきり予防事業の参加者数が減少したためだと考えられます。 （余地）各種事業の参加者数が増えれば、成果の向上は見込めます。

水泳・エアロビクス教室運営事業

教育委員会部局 御荘B&G海洋センター

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	289
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	02 各種スポーツ活動への参加機会の充実	目	04 御荘海洋センター費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
健康維持増進、体力の向上を図るため、年間198回の教室を開催しました。 ・水泳教室：968回、7,440名（R6.4 187名 R7.3 196名） ・エアロビクス教室：80回、762名（R6.4 29名 R7.3 28名） ・キッズダンス教室：85回、649名（R6.4 17名 R7.3 16名） （特別教室5回、75名）

特定財源情報
・海洋センター使用料 790千円 ・雑入 35千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	水泳・エアロビクス教室の開催回数 (回)	948	1,184	1,133
	活動				
	成果	水泳・エアロビクス教室の受講者数 (人)	6,653	9,026	8,851
	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	462	883	825
		オ 一般	393	576	265
		カ 事業費 (ア～オ合計)	855	1,459	1,090

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 教室受講者数は、昨年度より、1.9% (175名) 減少しており、当初の目標は達成できていません。 (原因) エアロビクス・キッズダンス教室の会員数は、昨年度と比べ維持しているが、講師の先生の都合により、2ヶ月間休講したため減少したと考えられます。また、水泳教室会員数も減少しております。 (水泳教室受講者数 令和5年度末：205名、令和6年度末：196名) (余地) 各教室の事業周知を行い、会員数の増加を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

学校開放施設管理運営事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	287
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	03 スポーツ施設の利用促進と適正管理	目	03 体育施設費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
利用者の利便性向上や安全性確保のため適切な維持管理を行いました。 ・対 象 体育館及びグラウンド ・開 放 日 日曜日・祝日・長期休業・時間外・平日 ・開館時間 4月～10月 / 午前9時から午後5時まで、午後7時から午後10時まで 11月～3月 / 午前9時から午後5時まで、午後6時から午後10時まで ・予 約：各校区公民館 【実績】 ・年間利用人数 32,923人 ・修繕6件 (旧西海中学校引戸錠、旧西浦小学校ダウンライト、旧東海小学校屋根 シーリング劣化部・体育館セクタースイッチ、旧西海中学校入口ガラス、 町民グラウンド照明)

特定財源情報
夜間照明使用料 675千円

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	修繕件数 (件)	3	4	6
	活動		0	0	0
	成果	学校開放施設年間利用者数 (人)	21,801	29,072	32,923
	成果	学校開放施設の運営 維持管理上の事故・トラブル件数 (件)	0	0	0
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	426	675
		オ 一般	2,343	2,379	2,733
		カ 事業費 (ア～オ合計)	2,343	2,805	3,408

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 前年度から年間利用者数が13.2ポイント上昇しました。 (原因) 大きな事故もなく施設利用出来たため利用人数が増加したと考えます。 (余地) 今後の利用については、引き続き必要な維持管理を行うことで利用者の維持、増加が見込めます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

愛南町いやしの郷トライアスロン大会実行委員会補助事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	04 スポーツツーリズムの推進	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成24年度 終了：令和 年度

手段 (R06年度の取り組み)
第11回愛南町いやしの郷トライアスロン2024を開催しました。
【実績】 ・開催日 令和6年6月1日（土）13時競技開始 ・会 場 愛南町西海地域 ・参加者 285名（エントリー数305名） ・完走者 259名 ・実行委員会を2回（5月・11月）開催しました。 ・実行委員会へ補助金11,000千円を交付しました。

特定財源情報
市町振興協会助成金 4,000千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R04年度実績	R05年度実績	R06年度実績
	活動	大会参加者数（人）	0	987	1,105
	活動	補助金額（円）	1,200,000	10,300,000	11,000,000
	成果	愛南町いやしの郷トライアスロン大会エントリー人数（人）	0	280	305
	成果	協賛社数（件）	0	34	33
事業費 （千円）	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	4,000	4,000
		オ 一般	1,200	6,300	7,000
	カ 事業費（ア～オ合計）		1,200	10,300	11,000

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) エントリー数は定員の80.2%と目標には達しませんでした。が昨年より増加しました。 (原因) 参加者についてはコロナ禍での選手のトライアスロン離れが要因であると 考えます。 (余地) 命に関わる大きな事故もなく終了することが出来ました。アンケートでも 愛南大会の高評価は健在であり、今後も参加者の増加が期待できると思わ れます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

- 図書館利用が増えている。町民が読書に関心をもつ環境づくりが功を奏していると考えられ、高く評価する。今後も学校教育とも連動しながら、取り組んでほしい。
- 多様な領域の活動を厳しく自己点検しながら、目標達成に向けて推進していることに高いプロ意識を感じる。町民の活力を高めるための取組姿勢を高く評価する。
- 人権・同和教育の推進を大切にしている様子が伺える。
- 健全なPTA活動が実施できていることが保護者同士のつながりづくりに役立っている。家庭力の向上のためにも今後も啓発してもらいたい。
- 公民館が、地域コミュニティの拠点として、また、社会教育の中核施設として機能しようとしていることを高く評価する。
- 県公連の指標（公民館版SDGs）も地域の実態に合わせて活用しながら、公民館活動が人づくり、地域づくりに貢献できるように取り組んでいることを高く評価する。
- 本の貸し出し冊数、人数ともに増えている。図書館司書の地道な努力を評価する。
- 人権・同和教育の地道な活動を評価する。身近なことから明日は我が身と思える興味を持つ内容のテーマでこれからも取り組み続けてほしい。
- PTAの気球のイベントは子供にも保護者間でも好評で、滅多に体験できないイベントを引っ張って来てくださったことを評価する。
- 公民館の利用者数が増加していることは、各地区公民館の活動が充実しているという事で評価する。
- 文化振興において、できることを一つ一つ地道に取り組んでいることを評価する。平城貝塚において、考古学の分野は興味を持つ人と持たない人で明確に分かれると思うが愛南町のアイデンティに関わる大切な文化財として多くの人に普及して欲しい。南宇和高校生にもぜひ関わってもらい、盛り上げてほしい。
- B&G海洋センターの海洋クラブは毎年様々な活動を行っており、児童生徒の健全な発育に良い影響を与えていることを評価する。海洋での活動は危険を伴うので、引き続き注意を払って活動してほしい。
- 水辺の安全教室、おたっしゃ教室など町民に必要な活動にも気を配り、毎年開催してくれることを評価する。
- トライアスロンの愛南大会が高評価であることは、運営する側の細心の注意を払った準備の様子を伺うことができる。今後も、事故の無いよう引き続き開催してほしい。
- 図書室利用者が増加していることを評価する。今後も、図書を充実し利用しやすい環境づくりに努められたい。
- 昨年に引き続いて、B&G海洋センターが、特A評価を20年連続で受けていることを評価する。今後も、地域住民が参加しやすくなるような事業運営をお願いしたい。
- 子どもの成長を支える地域ぐるみの教育の推進という視点での社会教育の体制構築をさらに強化してほしい。
- 地域学校協働本部を町全体で見える化していき、学校教育と社会教育の一体的な推進が地域創生にもつながっていくというイメージを町全体で高めてほしい。

- 文化センターの図書室の広さの割に利用者は多いと思う。面積を増やすことができればもっと充実を図れるだろうが、臨時的なイベントで工夫してみるのはいかがでしょうか。例えば、本の購買数が増えたなら、読んだ後に古本を扱うイベントがあれば年配の方は処分に困らないかもしれない。この循環の後、本の購買数が増えるかは不明だが、幼児の親にとって高価な絵本が古本で手に入れば家で読んであげられることになり、本に親しむ習慣作りにつながるかもしれないと思う。
- 平城貝塚の重要性を認識し、今後の愛南町の魅力として愛南町の住民に理解されるよう後世に残していただきたい。
- 差別解消は困難な問題であるが、一人一人の差別意識について気付かせる活動を実施していただきたい。